

調査結果の概要

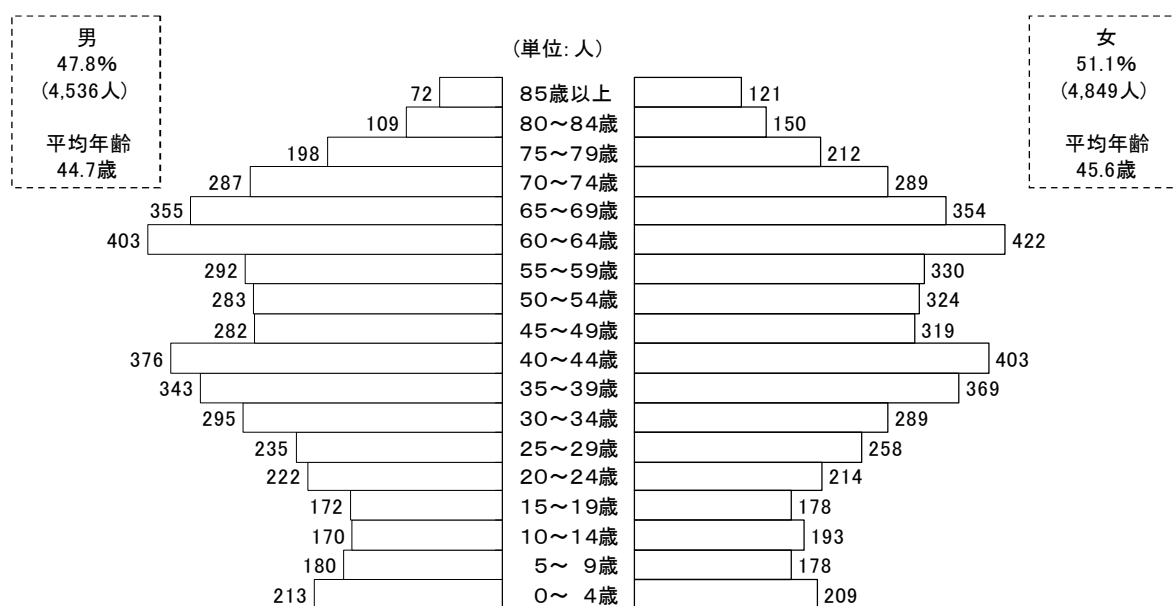
第 1 部 世帯と世帯員の状況

(調査票①(世帯票)の結果 集計対象 3,594 世帯、9,481 人の状況)

集計対象者の性・年齢階級(報告書本文 P13)

集計対象者 9,481 人の世帯員の性別をみると、男性 47.8%、女性 51.1%、平均年齢は男性 44.7 歳、女性は 45.6 歳であった。(図 I-1)

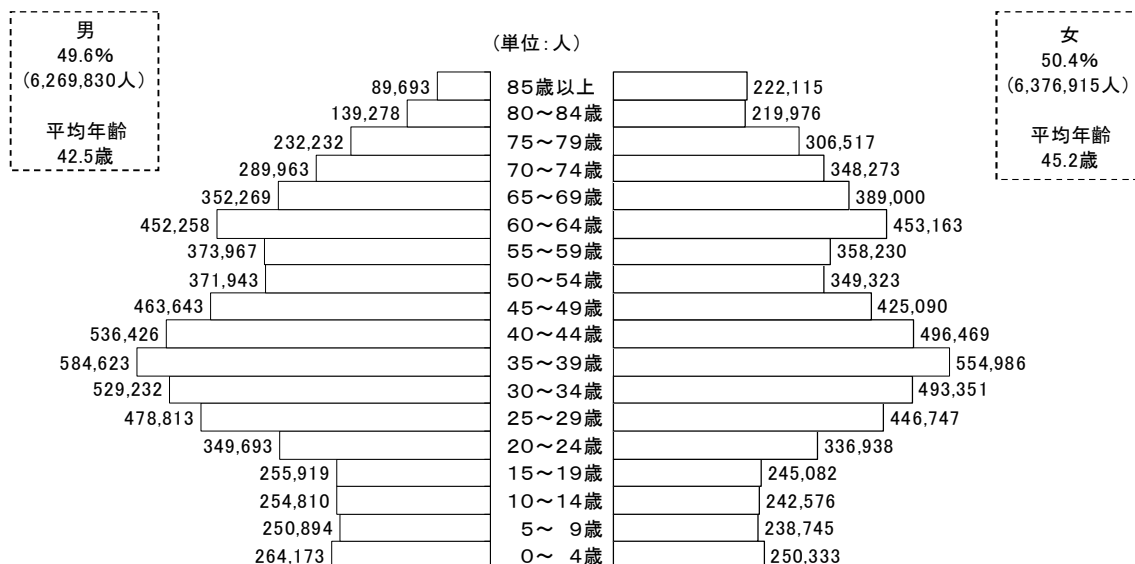
図 I-1 集計対象者の性・年齢階級



(注) 男性 47.8%、女性 51.1%で合計が 100%にならないのは、性別無回答の人がいるため。

(注) 男性 4,536 人、女性 4,849 人には、それぞれ年齢無回答の人を含むため、内訳の総数と一致しない。

《参考》住民基本台帳による東京都の世帯と人口(平成 23 年 1 月 1 日)(総務局)



(注) 男性 6,269,830 人、女性 6,376,915 人には、それぞれ年齢無回答の人を含むため、内訳の総数と一致しない。

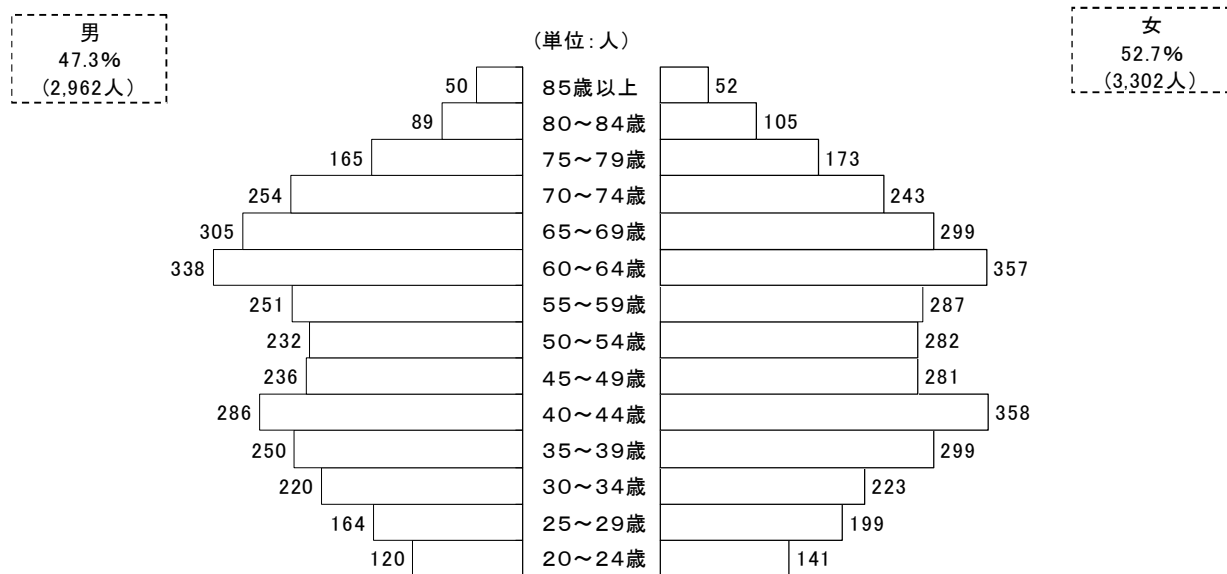
第2部 福祉のまちづくり等に関する実態と意識

(調査票②(福祉のまちづくり等に関する実態と意識票)の結果 集計対象 3,594 世帯の満 20 歳以上の世帯員 7,825 人を調査対象とし、6,264 人から回答を得た。)

回答者の性・年齢階級 (報告書本文 P85)

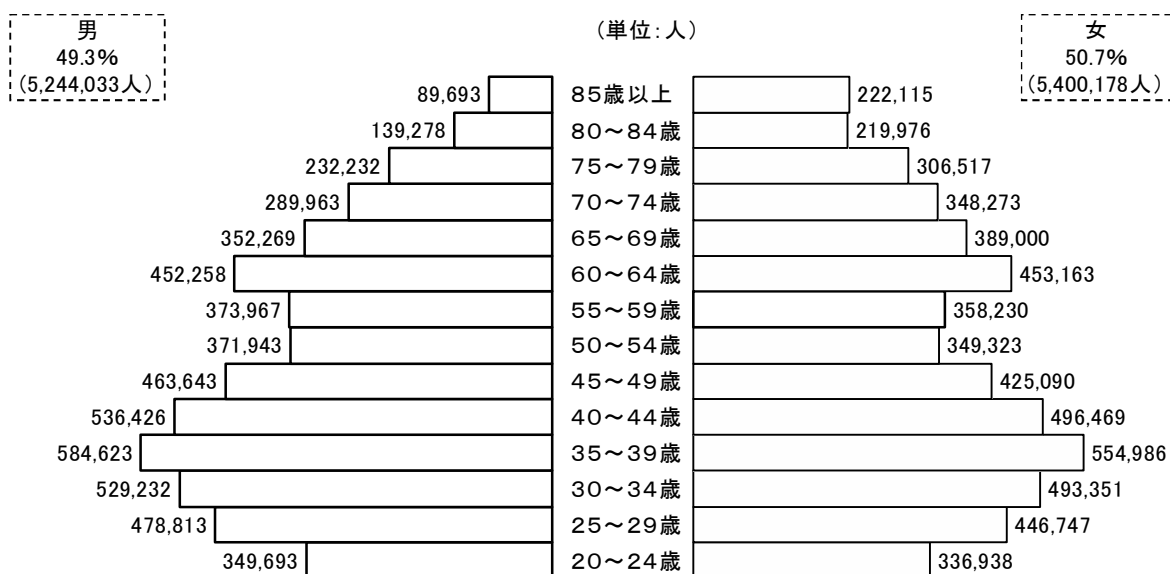
回答者の性・年齢階級の内訳については、次のとおりである。(図Ⅱ-1)

図Ⅱ-1 回答者の性・年齢階級



(注) 男性 2,962 人、女性 3,302 人には、それぞれ年齢無回答の人を含むため、内訳の総数と一致しない。

《参考》住民基本台帳による東京都の世帯と人口 (平成 23 年 1 月 1 日) (総務局)



第1章 日常よく出かけるところに着くまでのバリア

1 外出時の状況等（報告書本文 P87）

「外出時に何らかの障害がある」人 4.6%、「乳幼児を連れて外出することがある」人 11.3%

外出時の状況等（7項目）について聞いたところ、(1)～(5)の項目を合わせた「外出時に何らかの障害がある」人の割合が 4.6%、「乳幼児を連れて外出することがある」人の割合が 11.3%となっている。また、女性で「現在妊娠している」人の割合は 0.9%となっている。（表Ⅱ-1-1）

表Ⅱ-1 外出時の状況等〔複数回答〕

		総 数	は い	い い え	無 回 答
外出時に何らかの障害 がある（290人、4.6%）	(1) 視覚に障害があるため、 外出の際、福祉機器や介助 者が必要である	100.0 (6,264)	1.2 (74)	98.6 (6,178)	0.2 (12)
	(2) 聴覚に障害があるため、 外出の際、福祉機器や介助 者が必要である	100.0 (6,264)	1.5 (93)	98.3 (6,160)	0.2 (11)
	(3) 肢体に障害があるため、 外出の際、福祉機器や介助 者が必要である	100.0 (6,264)	3.1 (192)	96.8 (6,061)	0.2 (11)
	(4) 体の内部に障害があるた め、外出の際、福祉機器や 介助者が必要である	100.0 (6,264)	1.7 (104)	98.1 (6,146)	0.2 (14)
	(5) その他障害があるため、 外出の際、福祉機器や介助 者が必要である	100.0 (6,264)	2.1 (132)	97.5 (6,105)	0.4 (27)
	(6) 乳幼児を連れて外出する ことがある	100.0 (6,264)	11.3 (707)	88.2 (5,525)	0.5 (32)
	(7) 現在妊娠している	100.0 (3,302)	0.9 (31)	98.3 (3,246)	0.8 (25)

（注）「外出時に何らかの障害がある」の人数は、(1)～(5)の項目のいずれかひとつ以上に「はい」と答えた者の合計である。

「外出時の状況等」と「年齢」から、「外出時グループ」として、以下のとおり3つに区分した。

外出時グループ（3区分）

1 外出時の障害ありグループ

外出時の状況等(1)～(5)いずれかひとつ以上に「はい」と答えた者（290人）

※上記「外出時に何らかの障害がある」と同じ

2 乳幼児連れグループ

外出時の状況等(6)に「はい」と答えた者（707人）

3 高齢者グループ

年齢が65歳以上の者（1,735人）

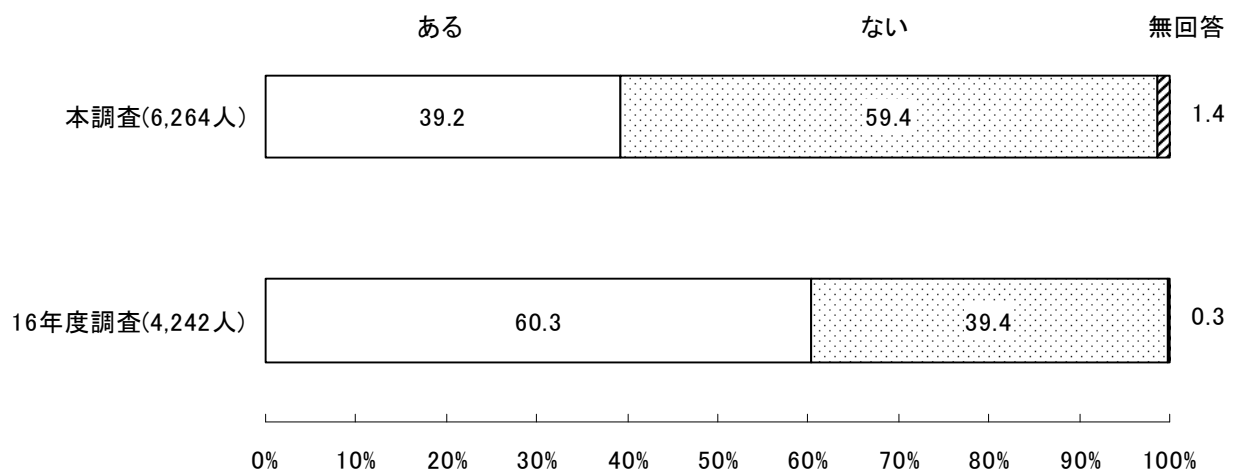
2 日常よく出かけるところに着くまでのバリア

(1) 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無－16 年度調査と比較（報告書本文 P93）

「バリアがある」の割合は約 4 割

日常よく出かけるところ（職場、学校、買い物先など）に着くまでに、道路や駅、電車やバスなどで、バリアフリー化が進んでいないために、不便や不安を感じる場所があるか（以下「バリアの有無」）を聞いたところ、「ある」の割合は 39.2%で、16 年度調査と比べると、21.1 ポイント低くなっている。（図Ⅱ-2）

図Ⅱ-2 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無－16 年度調査と比較



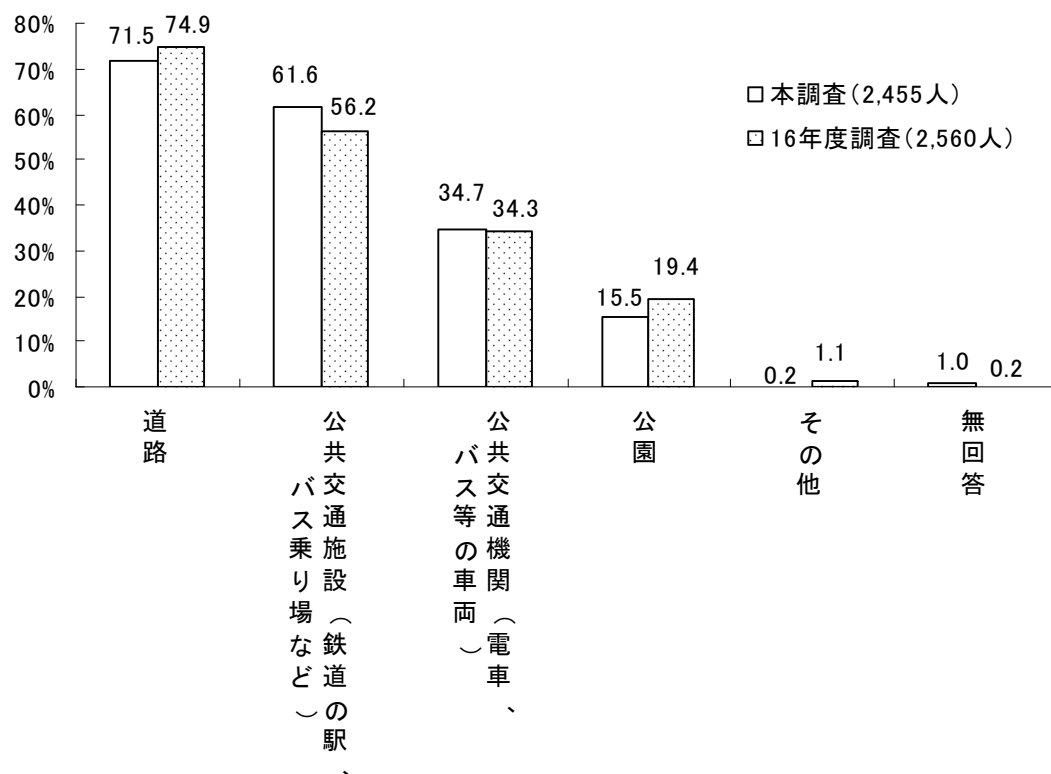
(2) 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕

－16 年度調査と比較（報告書本文 P96）

バリアの箇所は、「道路」7 割、「公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）」6 割

日常よく出かけるところに着くまでにバリアを感じるところが「ある」と回答した人（2,455 人）に、バリアを感じる箇所（以下、「バリアの箇所」）を聞いたところ、「道路」の割合が最も高く 71.5%、次いで、「公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）」が 61.6%と続いている。（図Ⅱ-3）

図Ⅱ-3 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕－16 年度調査と比較



（注）16 年度調査では、「公園」は、「公園・緑地・庭園等」として回答を求めている。

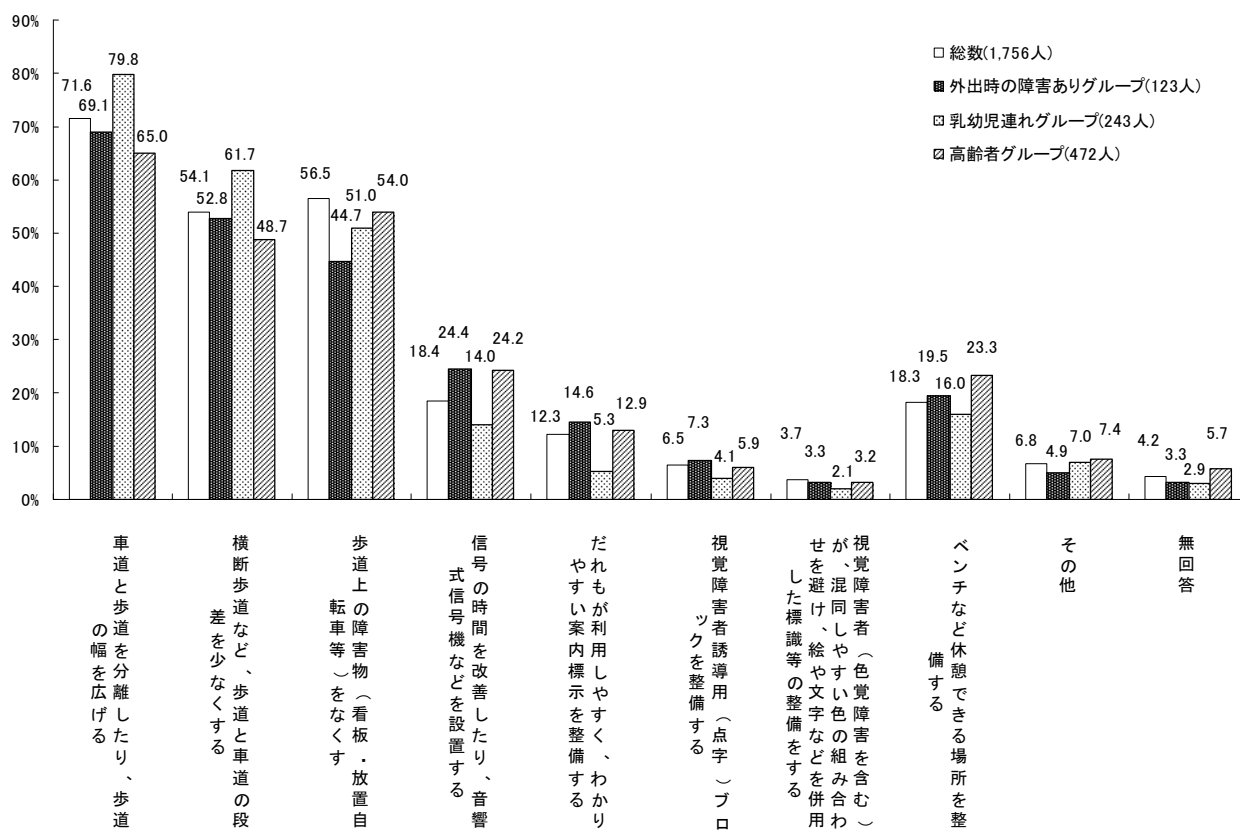
(3) 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別（報告書本文 P101）

高齢者では、「信号機の改善・設置」「ベンチなど休憩場所の整備」の割合が、総数に比べて高い

道路で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、「乳幼児連れグループ」は、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる（79.8%）」、「横断歩道など、歩道と車道の段差を少なくする（61.7%）」の2項目の割合が、総数に比べて高くなっている。

「高齢者グループ」は、「信号の時間を改善したり、音響式信号機などを設置する（24.2%）」、「ベンチなど休憩できる場所を整備する（23.3%）」の2項目の割合が、総数に比べて高くなっている。（図Ⅱ-4）

図Ⅱ-4 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別



(4) 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

一外出時グループ別（報告書本文 P105）

「乳幼児連れグループ」は、「エレベーターやエスカレーターの整備」の割合が高く、約7割

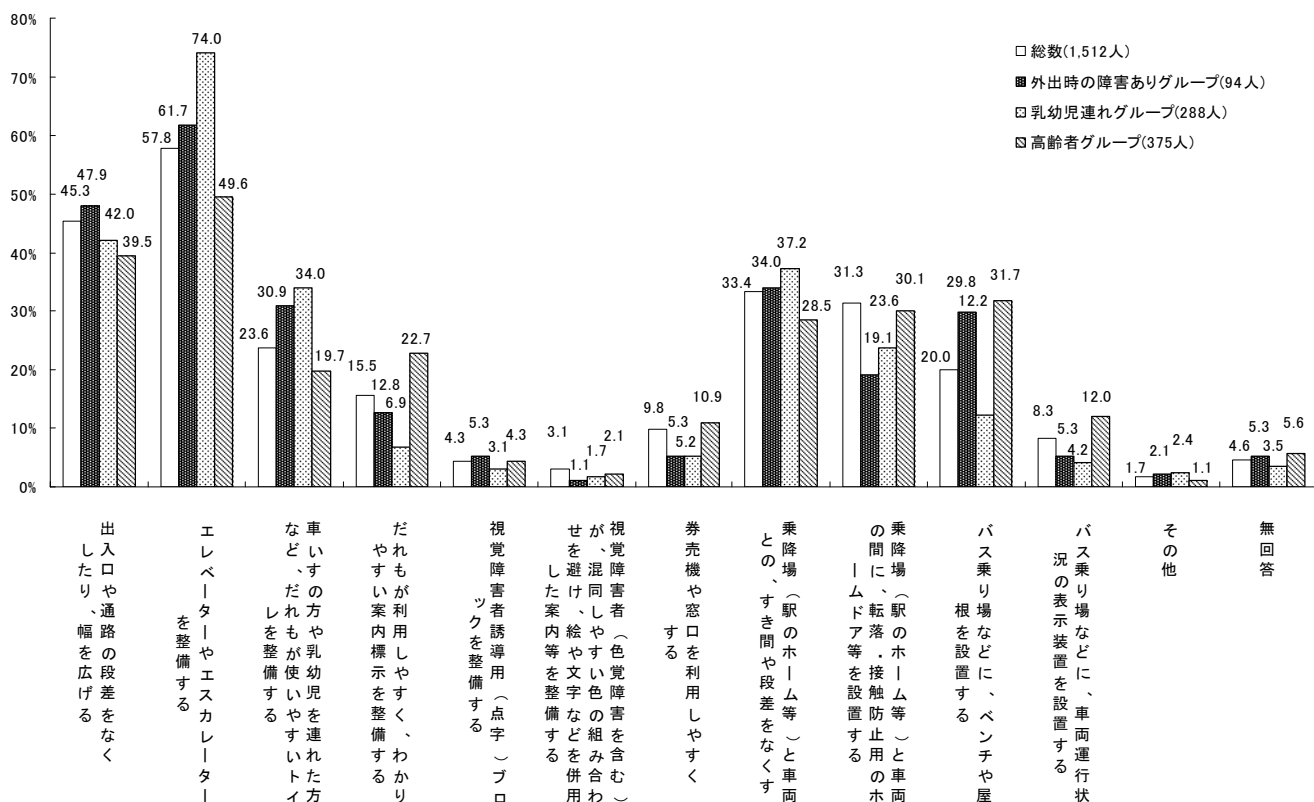
公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」は、「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」の割合が29.8%と、総数に比べて9.8ポイント高くなっている。

また、「乳幼児連れグループ」は、「エレベーターやエスカレーターを整備する」が 74.0%と、総数に比べて 16.2 ポイント高く、「車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する」が 34.0%と、総数に比べて 10.4 ポイント高くなっている。

「高齢者グループ」は、「だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する」が 22.7%と、総数に比べて 7.2 ポイント高く、「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」が 31.7%と、総数に比べて 11.7 ポイント高くなっている。(図Ⅱ-5)

図Ⅱ-5 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

一外出時グループ別



(5) 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

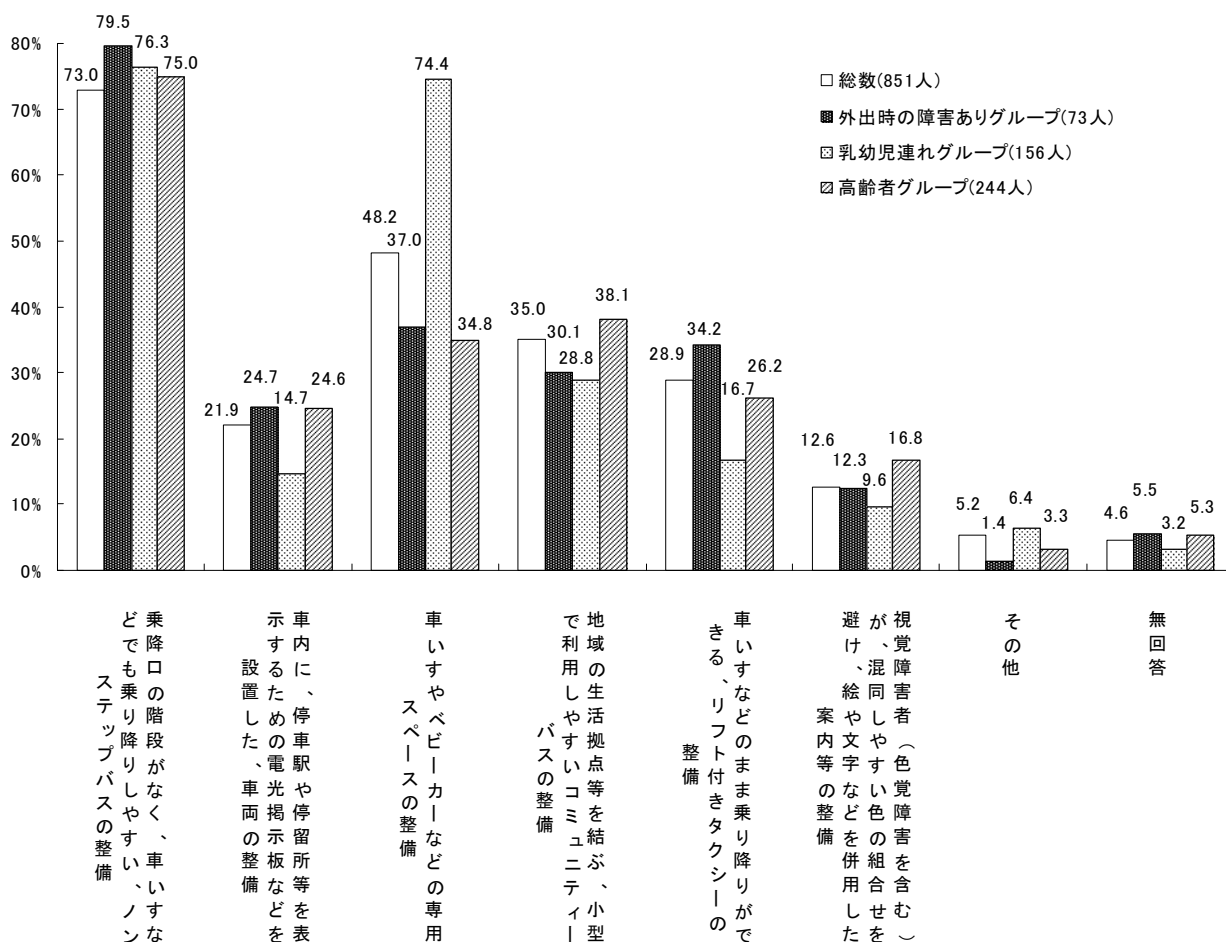
－外出時グループ別（報告書本文 P109）

「乳幼児連れグループ」は、「車いすやベビーカー専用スペースの整備」の割合が高く、約 7 割

公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、「乳幼児連れグループ」は、「車いすやベビーカーなどの専用スペースの整備」が 74.4%と、総数に比べて、26.2 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-6）

図Ⅱ-6 公共交通機関（電車、バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時グループ別



(6) 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別（報告書本文 P113）

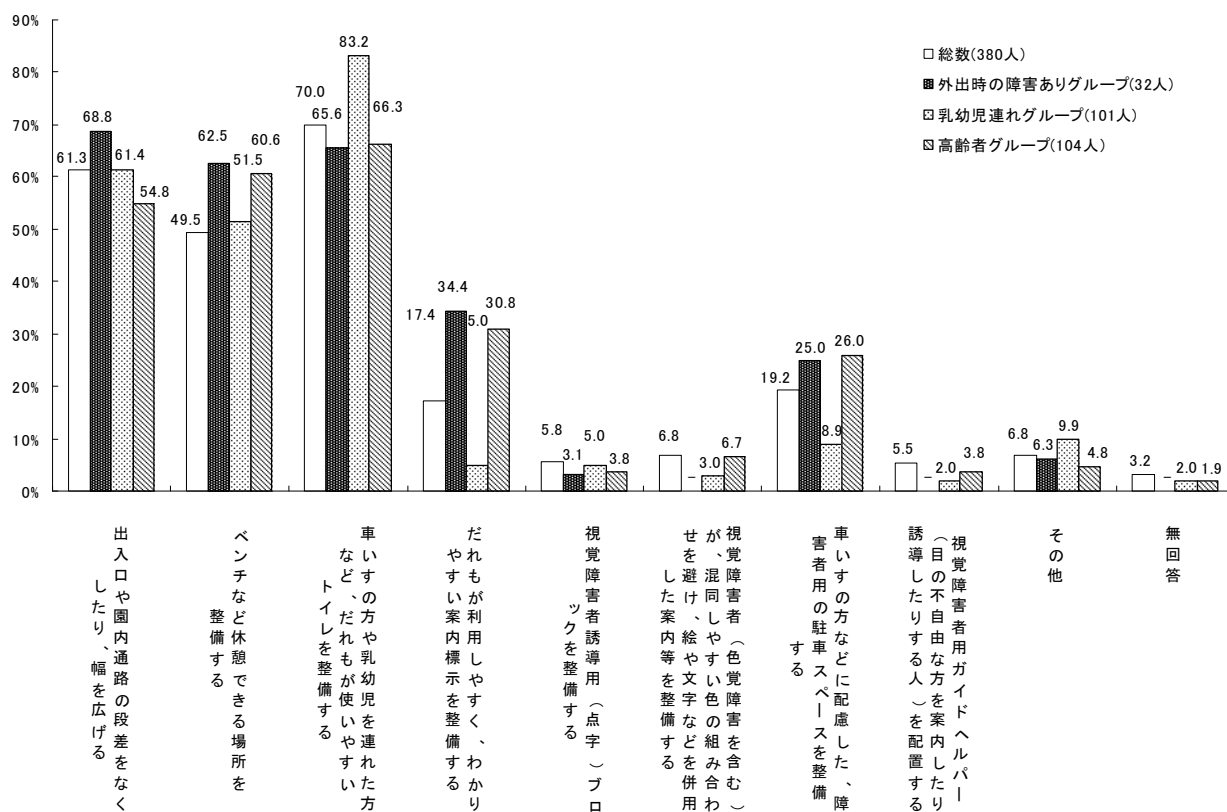
「乳幼児連れグループ」は、「だれもが使いやすいトイレの整備」の割合が、約 8 割

公園で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」は、「だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する」の割合が 34.4%と、総数に比べて 17.0 ポイント高くなっている。

また、「乳幼児連れグループ」は、「車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する」が 83.2%と、総数に比べて 13.2 ポイント高くなっている。

「高齢者グループ」は、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」が 60.6%と、総数に比べて 11.1 ポイント、「だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する」が 30.8%と、13.4 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-7）

図Ⅱ-7 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別



第2章 建築物のバリア

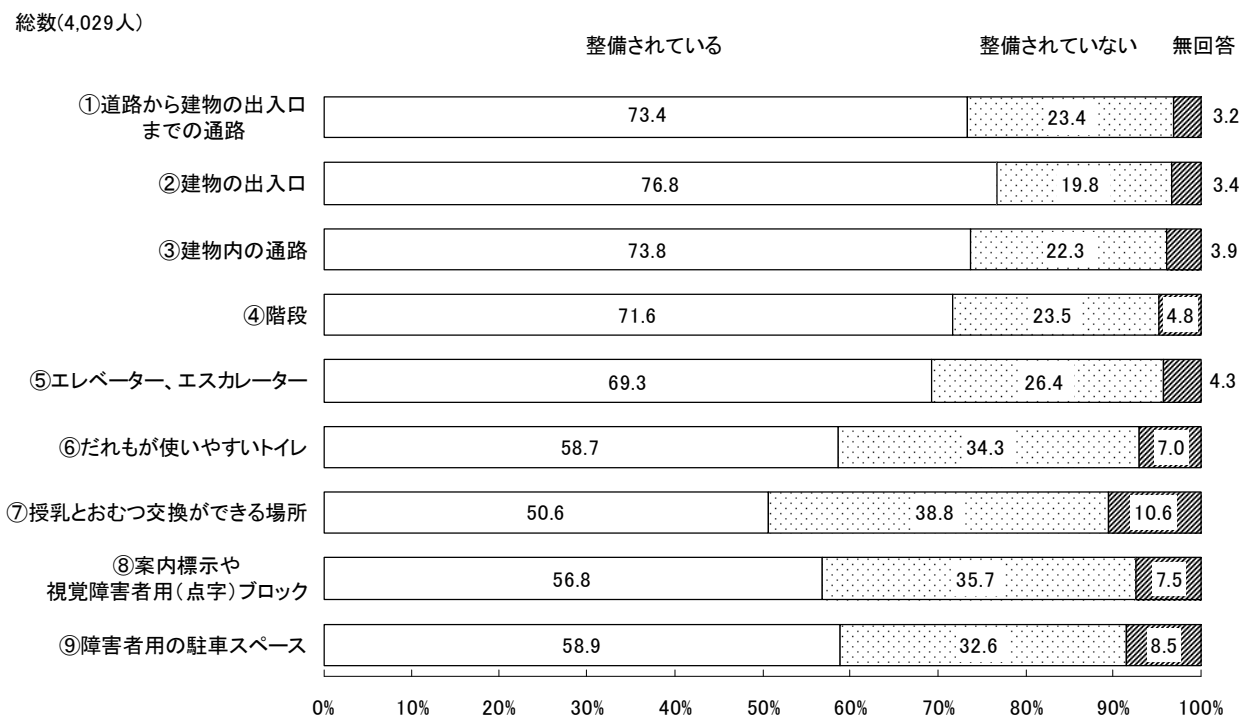
各施設の整備状況に関する意識

(1) 官公庁施設の整備状況に関する意識（報告書本文 P118）

「整備されている」と思う人の割合が最も低いのは、「授乳とおむつ交換の場所」

官公庁施設を利用したことが「ある」と答えた人（4,029人）に、官公庁施設の整備状況9項目について、整備されていると思うかどうか聞いたところ、「整備されている」の割合が最も高いのは、「建物の出入口」で、76.8%となっている。一方、「整備されている」の割合が最も低いのは、「授乳とおむつ交換ができる場所」で、50.6%となっている。（図Ⅱ-8）

図Ⅱ-8 官公庁施設の整備状況に関する意識



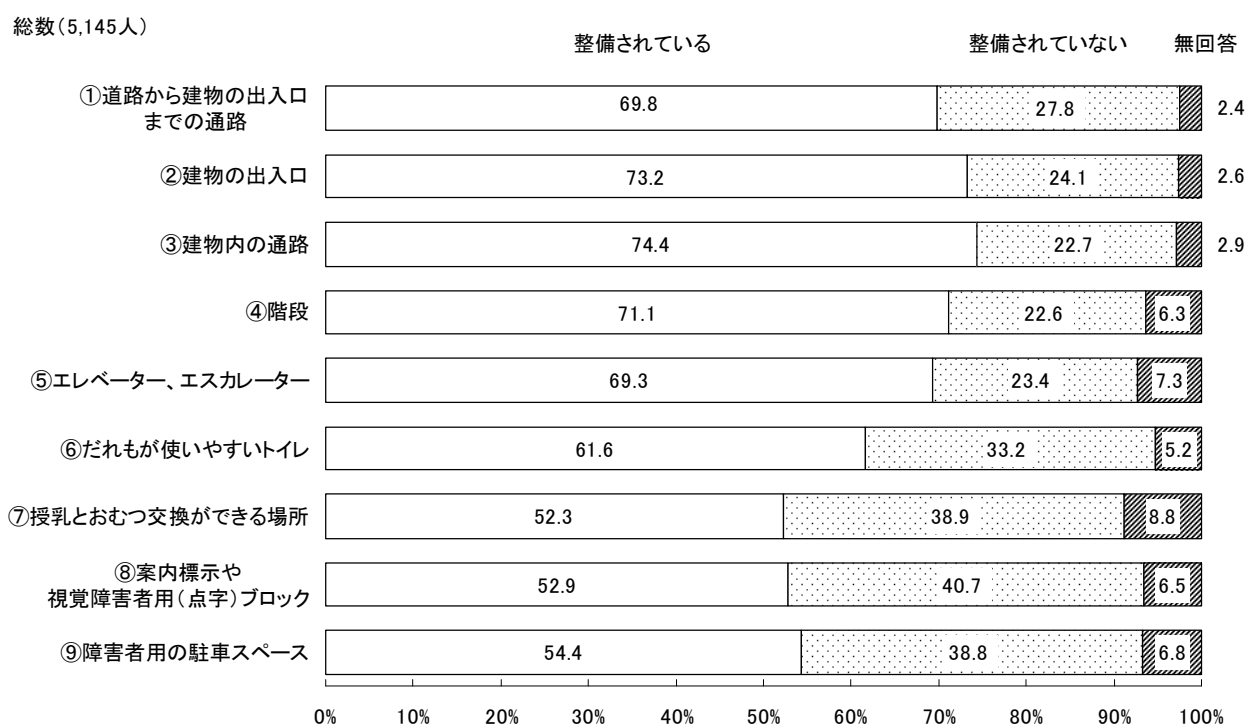
(注) 「整備されている」とは、「整備されている」と「やや整備されている」の合計を表し、「整備されていない」とは、「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計を表す。

(2) 病院や診療所の整備状況に関する意識（報告書本文 P119）

「整備されている」と思う人の割合が最も低いのは、「授乳とおむつ交換の場所」

病院や診療所を利用したことが「ある」と答えた人（5,145 人）に、病院や診療所の整備状況 9 項目について、整備されていると思うかどうか聞いたところ、「整備されている」の割合が最も高いのは、「建物内の通路」で、74.4%となっている。一方、「整備されている」の割合が最も低いのは、「授乳とおむつ交換ができる場所」で、52.3%となっている。（図Ⅱ-9）

図Ⅱ-9 病院や診療所の整備状況に関する意識



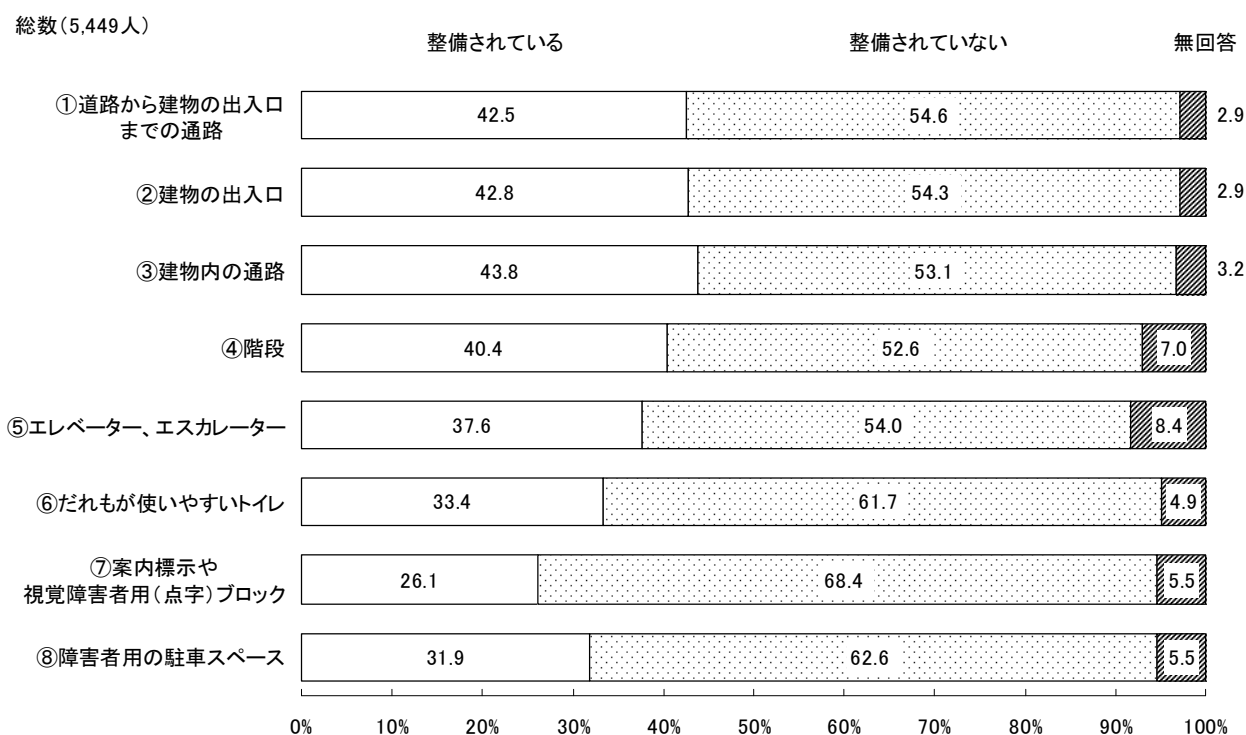
(注) 「整備されている」とは、「整備されている」と「やや整備されている」の合計を表し、「整備されていない」とは、「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計を表す。

(3) 飲食店の整備状況に関する意識（報告書本文 P120）

「整備されている」と思う人の割合が最も低いのは、「案内標示や視覚障害者用（点字）ブロック」

飲食店を利用したことが「ある」と答えた人（5,449人）に、飲食店の整備状況8項目について、整備されていると思うかどうか聞いたところ、「整備されている」の割合が最も高いのは、「建物内の通路」で、43.8%となっている。一方、「整備されている」の割合が最も低いのは、「案内標示や視覚障害者用（点字）ブロック」で、26.1%となっている。（図Ⅱ-10）

図Ⅱ-10 飲食店の整備状況に関する意識



(注) 飲食店については、「授乳とおむつ交換ができる場所」の選択肢を設けていない。

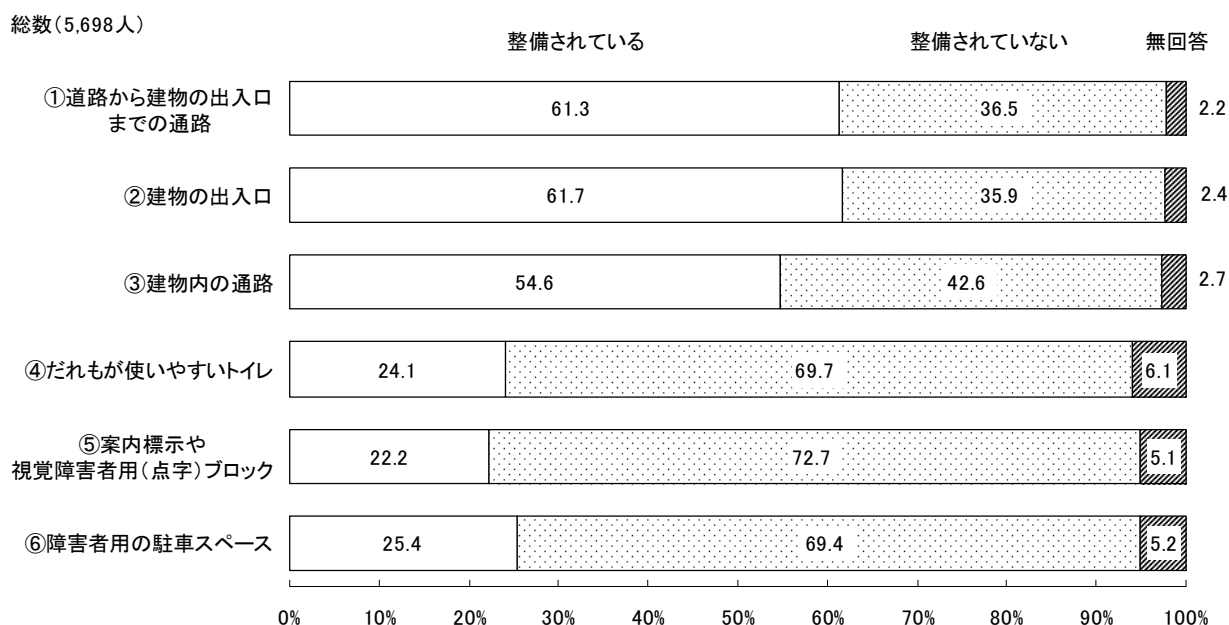
(注) 「整備されている」とは、「整備されている」と「やや整備されている」の合計を表し、「整備されていない」とは、「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計を表す。

(4) コンビニエンスストアの整備状況に関する意識（報告書本文 P121）

「整備されている」と思う人の割合が最も低いのは、「案内標示や視覚障害者用（点字）ブロック」

コンビニエンスストアを利用したことが「ある」と答えた人（5,698人）に、コンビニエンスストアの整備状況6項目について、整備されていると思うかどうか聞いたところ、「整備されている」の割合が最も高いのは、「建物の出入口」で、61.7%となっている。一方、「整備されている」の割合が最も低いのは、「案内標示や視覚障害者用（点字）ブロック」で、22.2%となっている。（図Ⅱ-11）

図Ⅱ-11 コンビニエンスストアの整備状況に関する意識



(注) コンビニエンスストアについては、「階段」「エレベーター、エスカレーター」「授乳とおむつ交換ができる場所」の選択肢を設けていない。

(注) 「整備されている」とは、「整備されている」と「やや整備されている」の合計を表し、「整備されていない」とは、「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計を表す。

第3章 住宅のバリア

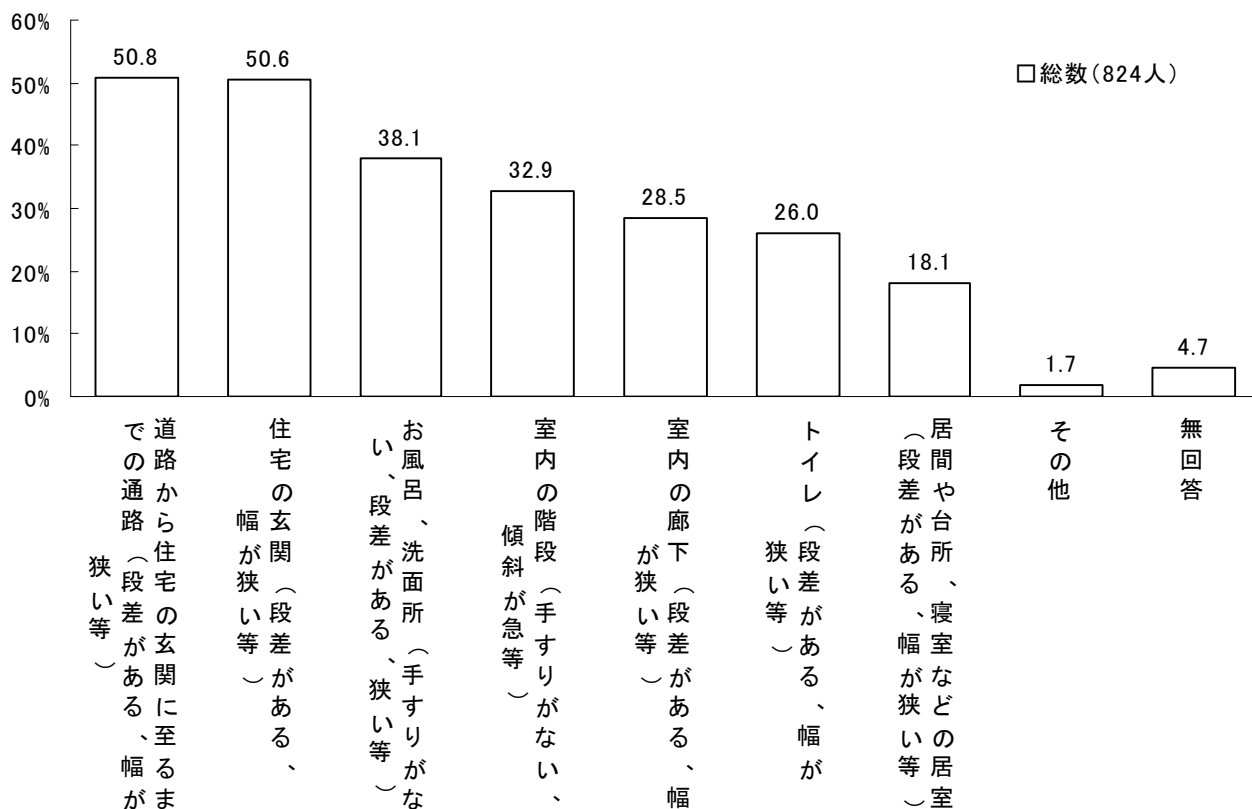
現在の住宅でのバリアの箇所

(1) 現在の住宅でのバリアの箇所（一戸建て）〔複数回答〕（報告書本文 P137）

「道路から住宅の玄関に至るまでの通路」「住宅の玄関」の割合が、それぞれ約5割

一戸建てでバリアを感じるところが「ある」と答えた人（824人）に、バリアを感じる箇所を聞いたところ、「道路から住宅の玄関に至るまでの通路」の割合が50.8%、「住宅の玄関」が50.6%となっている。（図Ⅱ-12）

図Ⅱ-12 現在の住宅でのバリアの箇所（一戸建て）〔複数回答〕

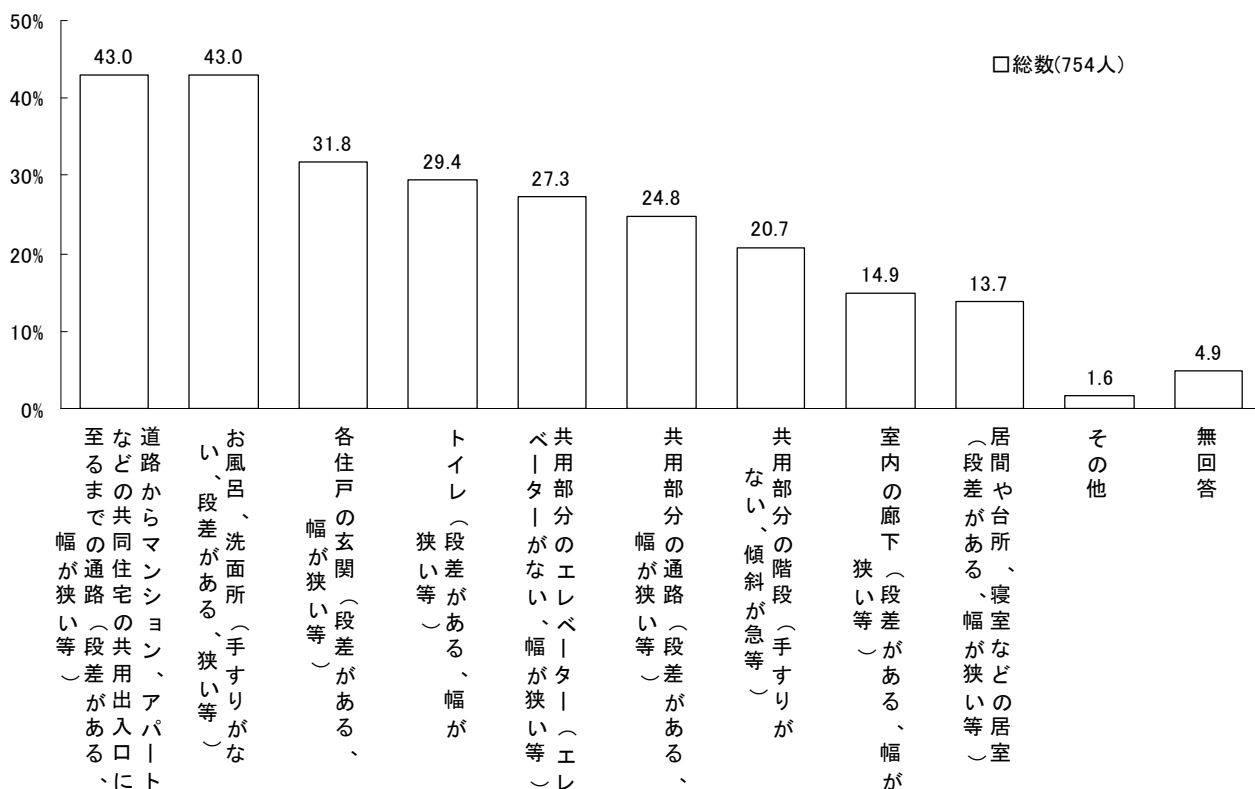


(2) 現在の住宅でのバリアの箇所（共同住宅）〔複数回答〕（報告書本文 P140）

「道路から共同住宅の出入口に至るまでの道路」「お風呂、洗面所」の割合が高く、それぞれ約 4 割

共同住宅でバリアを感じるところが「ある」と答えた人（754 人）に、バリアを感じる箇所を聞いたところ、「道路からマンション、アパートなどの共同住宅の共用出入口に至るまでの通路」と「お風呂、洗面所」の割合が、それぞれ 43.0%となっている。（図Ⅱ-13）

図Ⅱ-13 現在の住宅でのバリアの箇所（共同住宅）〔複数回答〕



第4章 まちの中での情報提供

まちの中での案内標示等の整備状況に関する意識

一性、年齢階級、地域別（報告書本文 P143）

「整備されている」と思う人と「やや整備されている」と思う人を合わせた割合が、約7割

まちの中での案内標示等の整備状況に関する意識を性、年齢階級、地域別にみると、いずれも「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた割合は、約7割となっている。
(表Ⅱ-2)

表Ⅱ-2 まちの中での案内標示等の整備状況に関する意識一性、年齢階級、地域別

		総 数	整 備 さ れ て い る	い や や 整 備 さ れ て い る	い あ ま り 整 備 さ れ て い ない	整 備 さ れ て い ない	無 回 答
総数		100.0 (6,264)	13.7	58.8	23.8	2.7	1.1
性別	男	100.0 (2,962)	14.8	57.4	23.6	3.2	0.9
	女	100.0 (3,302)	12.6	60.0	23.9	2.3	1.2
年齢階級別	20～29歳	100.0 (624)	15.2	59.9	21.2	3.4	0.3
	30～39歳	100.0 (992)	16.7	62.1	19.0	1.9	0.3
	40～49歳	100.0 (1,161)	15.2	59.1	22.7	2.9	0.2
	50～59歳	100.0 (1,052)	12.0	58.9	26.2	2.5	0.4
	60～69歳	100.0 (1,299)	11.1	58.4	26.3	2.6	1.7
	70～79歳	100.0 (835)	13.1	56.3	25.0	3.2	2.4
	80歳以上	100.0 (296)	13.2	52.4	26.7	3.0	4.7
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,735)	11.9	57.1	25.4	2.9	2.7
地域別	区部	100.0 (3,929)	13.5	59.3	23.3	2.8	1.1
	区中央部	100.0 (346)	13.3	59.5	24.0	2.0	1.2
	区南部	100.0 (487)	14.0	61.4	20.9	2.1	1.6
	区西南部	100.0 (527)	14.2	58.3	23.0	3.4	1.1
	区西部	100.0 (407)	14.7	54.8	26.5	1.7	2.2
	区西北部	100.0 (881)	12.7	59.9	23.4	3.2	0.8
	区東北部	100.0 (603)	14.8	59.4	22.4	3.3	0.2
	区東部	100.0 (678)	12.1	60.0	23.7	2.9	1.2
	市・町・村部	100.0 (2,335)	13.9	58.0	24.5	2.6	1.0
	西多摩	100.0 (333)	11.1	57.4	26.4	3.0	2.1
	南多摩	100.0 (757)	12.3	58.1	25.0	3.3	1.3
	北多摩西部	100.0 (236)	12.7	57.2	28.0	1.3	0.8
	北多摩南部	100.0 (577)	16.1	59.1	22.4	2.1	0.3
	北多摩北部	100.0 (432)	16.4	57.2	23.4	2.3	0.7

第5章 ソフト面でのバリアフリー（心のバリアフリー）

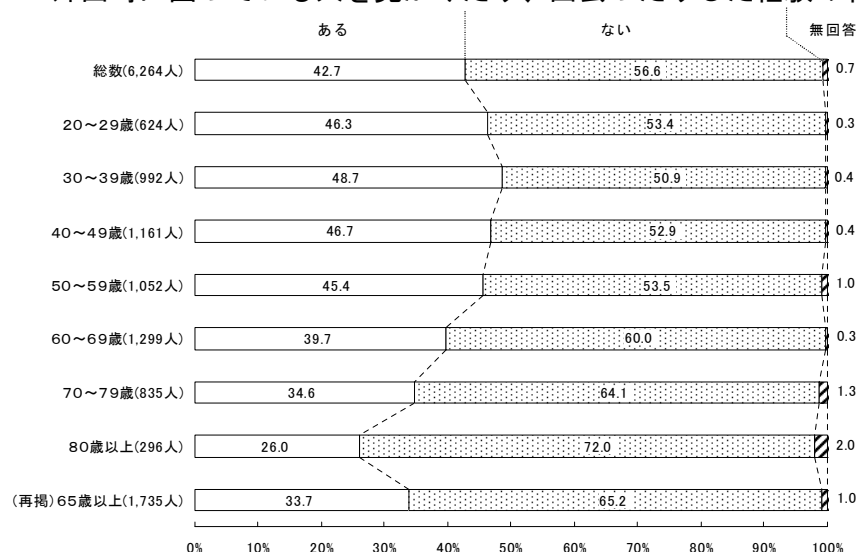
外出時に困っている人に手助けをした経験

(1) 外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無一年齢階級別（報告書本文 P147）

「外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりしたことがある」人は、約4割

調査基準日（平成23年10月11日）から過去1年くらいの間に、外出の際、高齢者・障害のある方・妊産婦・乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがあるかを聞いたところ、「ある」人の割合は42.7%、「ない」人は56.6%となっている。（図Ⅱ-14）

図Ⅱ-14 外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無一年齢階級別

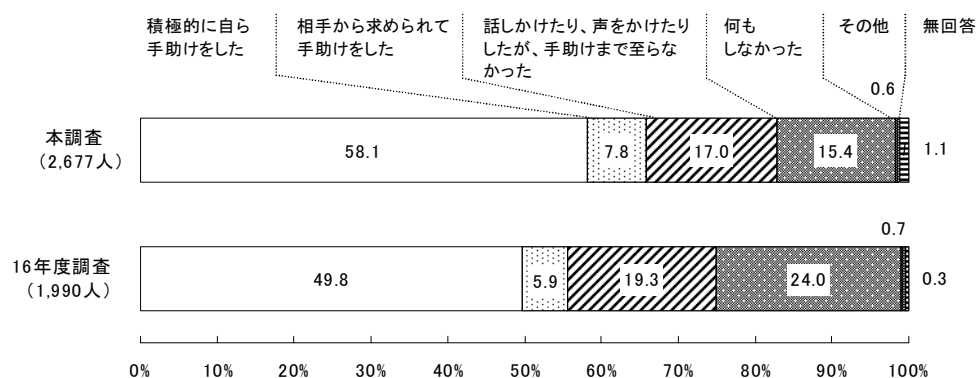


(2) 困っている人を見かけたときに自分がとった行動－16年度調査と比較（報告書本文 P148）

「積極的に自ら手助けをした」は、前回調査から8.3ポイント増加

困っているのを見かけたことがある人（2,677人）に、その時どのような行動をとったかを聞いたところ、「積極的に自ら手助けをした」の割合は58.1%で、16年度調査と比べて、8.3ポイント高くなっている。（図Ⅱ-15）

図Ⅱ-15 困っている人を見かけたときに自分がとった行動－16年度調査と比較

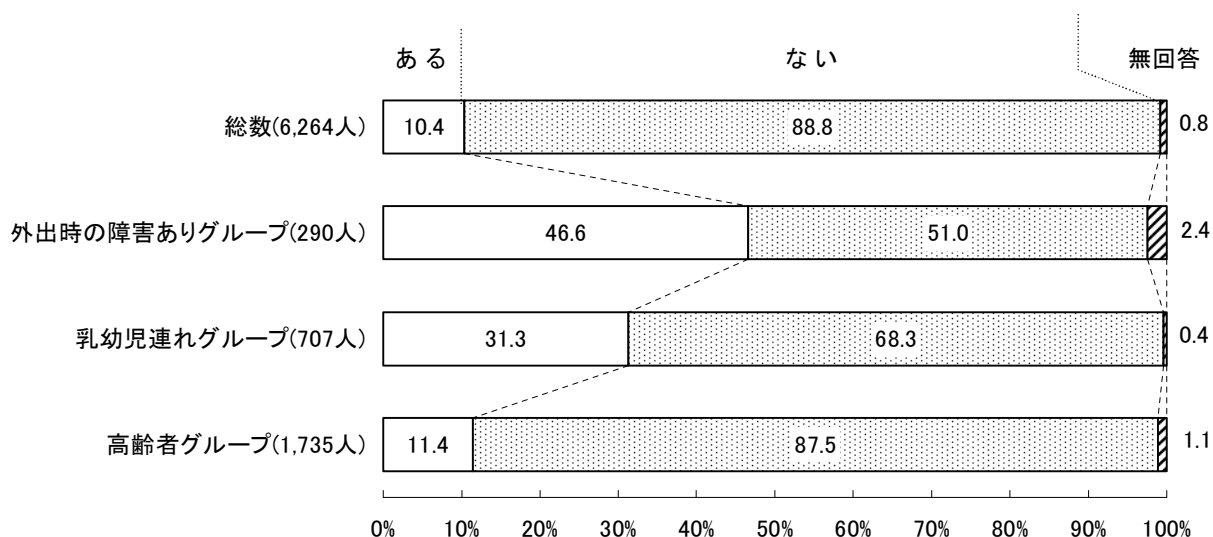


(2) 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－外出時グループ別（報告書本文 P154）

「ある」の割合は、「外出時の障害ありグループ」46.6%

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」は、「ある」の割合が46.6%と、総数に比べて36.2ポイント高くなっている。（図Ⅱ-16）

図Ⅱ-16 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－外出時グループ別



(3) 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

ー外出時グループ別（報告書本文 P157）

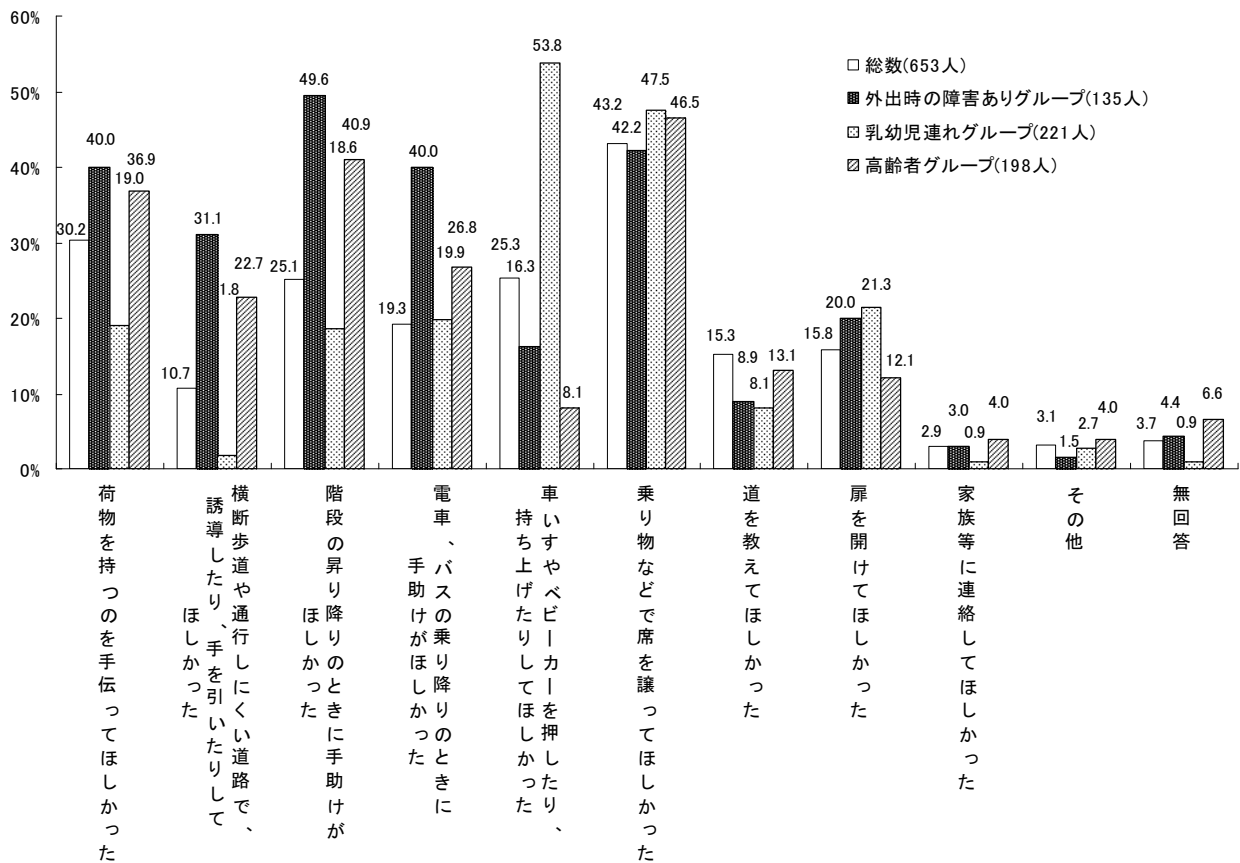
「外出時の障害ありグループ」は、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」の割合が高く、約5割

必要とした手助けの内容を外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」では、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」の割合が 49.6%と最も高く、総数に比べて 24.5 ポイント高くなっている。

「乳幼児連れグループ」では、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった」の割合が 53.8%と最も高く、総数に比べて 28.5 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-17）

図Ⅱ-17 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

ー外出時グループ別



第6章 ユニバーサルデザイン

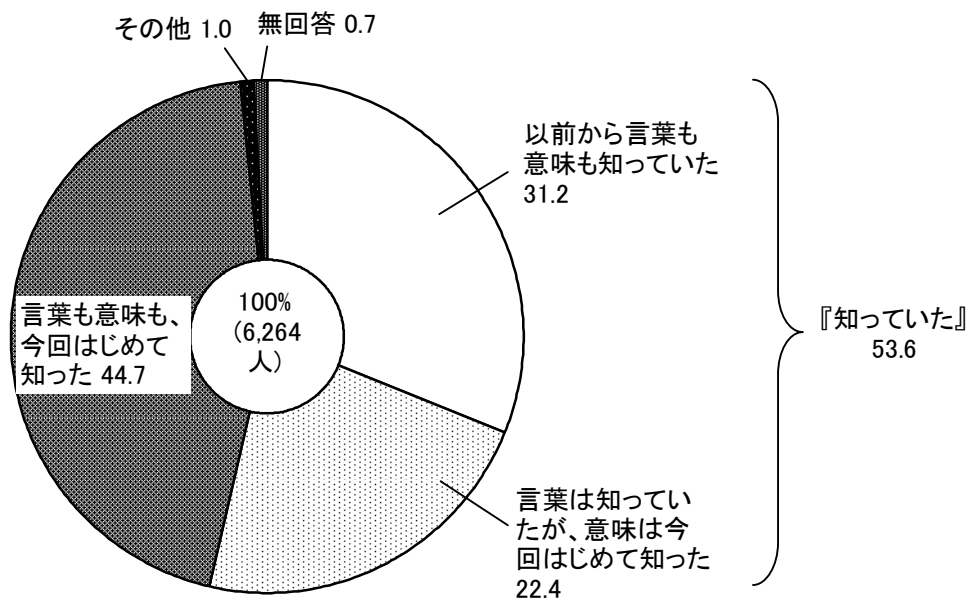
ユニバーサルデザインの認知度（報告書本文 P159）

『知っていた』の割合は、約5割

「ユニバーサルデザイン」という言葉や意味を知っていたかどうか聞いたところ、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが、意味は今回はじめて知った」を合わせた、『知っていた』の割合は53.6%となっている。

一方、「言葉も意味も、今回はじめて知った」の割合は44.7%となっている。（図Ⅱ-18）

図Ⅱ-18 ユニバーサルデザインの認知度



第7章 東京の福祉のまちづくり

1 東京の福祉のまちづくりの印象

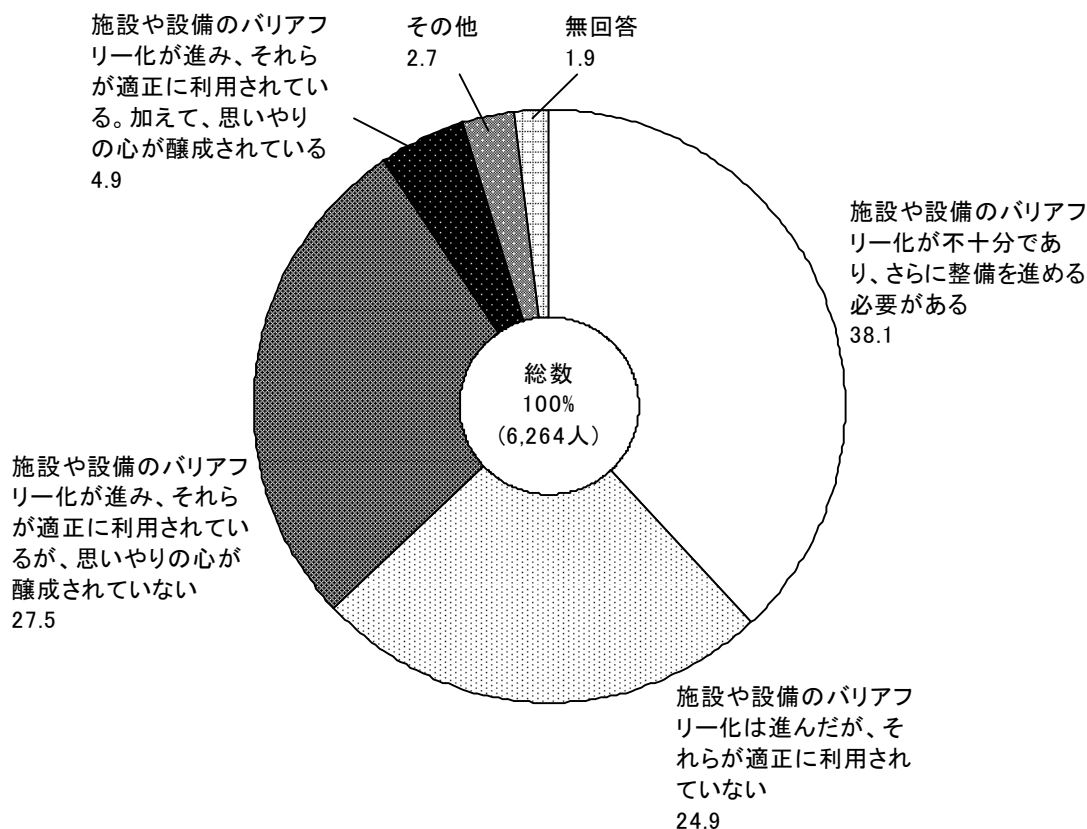
(1) 東京の福祉のまちづくりの印象（報告書本文 P165）

「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人の割合は、5割超

東京の福祉のまちづくりの印象を聞いたところ、「施設や設備のバリアフリー化が進み、それらが適正に利用されているが、思いやりの心が醸成されていない」が 27.5%、「施設や設備のバリアフリー化は進んだが、それらが適正に利用されていない」が 24.9%、「施設や設備のバリアフリー化が進み、それらが適正に利用されている。加えて、思いやりの心が醸成されている」が 4.9%で、「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人の割合は 57.3%となっている。

一方、「施設や設備のバリアフリー化が不十分であり、さらに整備を進める必要がある」の割合は 38.1%となっている。（図Ⅱ-19）

図Ⅱ-19 東京の福祉のまちづくりの印象



(注)「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人とは、「施設や設備のバリアフリー化は進んだが、それらが適正に利用されていない」と「施設や設備のバリアフリー化が進み、それらが適正に利用されているが、思いやりの心が醸成されていない」と「施設や設備のバリアフリー化が進み、それらが適正に利用されている。加えて、思いやりの心が醸成されている」の3項目いずれかを回答した人をさす。

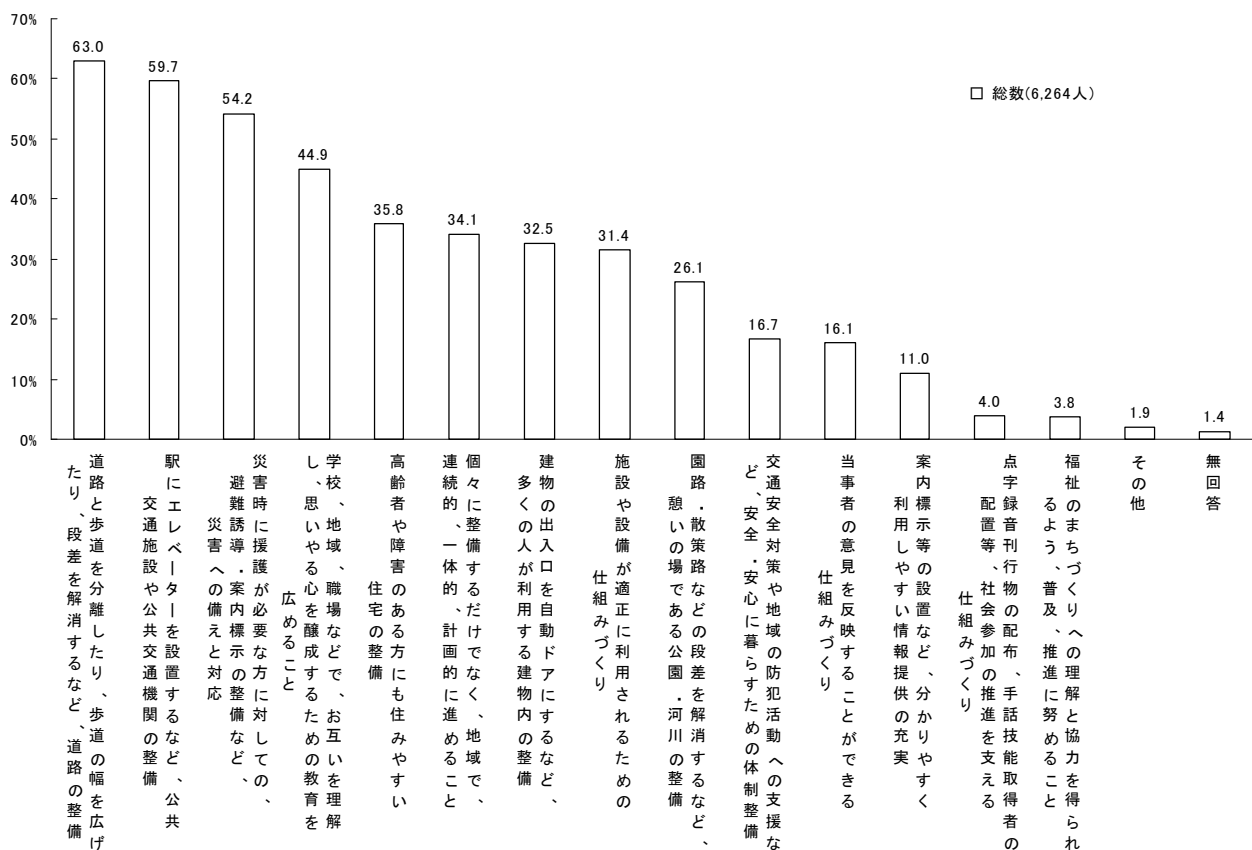
2 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること

(1) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕（報告書本文 P169）

「道路の整備」「公共交通施設・機関の整備」「災害への備えと対応」の3項目の割合が高く、それぞれ5割超

今後「福祉のまちづくり」を進めていくにあたり、東京都が特に重点をおいて取り組む必要があると思うことを聞いたところ、「道路と歩道を分離したり、歩道の幅を広げたり、段差を解消するなど、道路の整備」の割合が最も高く63.0%、次いで「駅にエレベーターを設置するなど、公共交通施設や公共交通機関の整備」が59.7%、「災害時に援護が必要な方に対しての、避難誘導・案内標示の整備など、災害への備えと対応」が54.2%と続いている。（図Ⅱ-20）

図Ⅱ-20 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕



第8章 子育て支援

1 子育てのための住宅の周りの環境

子育てをする上で住宅の周りの環境として重要と思うこと〔複数回答〕

一性・年齢階級別（報告書本文 P176）

男性は「静かな環境にあり、治安がよい」、女性は「小児科の病院・診療所が近くにある」の割合が、それぞれ最も高く、約5割

重要と思うことを性・年齢階級別にみると、男性は、「静かな環境にあり、治安がよい」の割合が49.7%と最も高く、女性は、「小児科の病院・診療所が近くにある」が47.2%と最も高くなっている。

男性20～60代では、いずれの年代においても、「静かな環境にあり、治安がよい」が最も高く、女性20代では、「静かな環境にあり、治安がよい」、女性30代では、「周辺の道路が安全である」、女性40～60代では、「小児科の病院・診療所が近くにある」が最も高くなっている。（表Ⅱ-3）

表Ⅱ-3 子育てをする上で住宅の周りの環境として重要と思うこと〔複数回答〕

一性・年齢階級別

	総数	子供の遊び場や公園が近	周辺の道路が安全である	静かな環境にあり、治安	託児所・保育所や幼稚園が近くにある	小学校や中学校が近くに	駅やバス停に近く、通勤	小児科の病院・診療所が近くにある	日用品を購入するスーパーや飲食店が近くにある	身近に頼れる人がいる	その他	特にな	わからない	無回答
総数	100.0 (6,264)	43.2	44.9	46.2	27.0	16.1	8.5	44.8	14.8	25.1	0.5	1.0	4.1	1.5
男	100.0 (2,962)	45.1	46.5	<u>49.7</u>	27.7	17.1	7.9	42.0	12.0	21.0	0.5	1.3	4.0	1.5
20～29歳	100.0 (284)	48.9	44.4	<u>57.7</u>	20.8	15.8	7.4	39.8	15.5	24.3	0.4	1.4	3.9	-
30～39歳	100.0 (470)	48.1	48.1	<u>53.8</u>	30.6	14.7	8.1	37.7	11.7	23.2	1.5	-	2.8	0.9
40～49歳	100.0 (522)	44.4	54.8	<u>55.9</u>	20.5	18.0	9.8	39.1	12.8	20.3	0.2	0.6	2.5	1.3
50～59歳	100.0 (483)	42.0	47.6	<u>51.8</u>	30.0	18.8	7.2	44.5	10.1	24.0	0.8	0.4	2.3	0.6
60～69歳	100.0 (643)	43.7	47.7	<u>49.1</u>	32.2	15.9	7.0	47.0	11.4	19.8	0.5	1.4	3.1	1.2
70～79歳	100.0 (419)	47.5	36.3	35.6	29.8	20.5	8.6	43.7	12.9	17.4	-	2.4	7.6	3.6
80歳以上	100.0 (139)	39.6	35.3	33.1	24.5	13.7	5.8	36.0	8.6	15.1	-	7.2	11.5	5.8
(再掲)65歳以上	100.0 (863)	44.7	39.3	39.5	30.4	16.7	7.3	44.3	11.5	17.6	-	3.0	7.4	3.0
女	100.0 (3,302)	41.4	43.5	43.2	26.4	15.2	9.0	<u>47.2</u>	17.4	28.9	0.4	0.8	4.1	1.4
20～29歳	100.0 (340)	43.8	40.9	<u>50.9</u>	31.5	11.2	9.7	45.3	20.6	31.8	0.6	0.9	1.8	-
30～39歳	100.0 (522)	46.4	<u>49.8</u>	42.3	29.5	12.5	6.1	43.7	20.1	34.3	0.8	0.4	1.3	1.1
40～49歳	100.0 (639)	41.9	47.1	46.8	22.1	16.3	7.2	<u>48.5</u>	17.1	31.5	0.3	0.5	2.0	1.1
50～59歳	100.0 (569)	39.5	43.2	47.5	24.8	17.9	8.4	<u>55.2</u>	17.9	27.4	0.5	0.2	2.3	1.2
60～69歳	100.0 (656)	41.6	40.7	39.9	31.3	15.2	10.7	<u>52.1</u>	14.0	27.3	0.2	1.1	4.1	1.5
70～79歳	100.0 (416)	37.7	38.9	36.3	23.1	16.8	13.2	37.5	18.5	25.7	0.2	1.4	8.9	2.2
80歳以上	100.0 (157)	33.1	38.2	31.2	17.8	14.0	7.6	34.4	10.8	14.0	-	3.2	21.7	4.5
(再掲)65歳以上	100.0 (872)	37.6	39.1	36.5	23.7	16.1	11.2	41.6	15.7	23.7	0.2	1.4	10.4	2.6

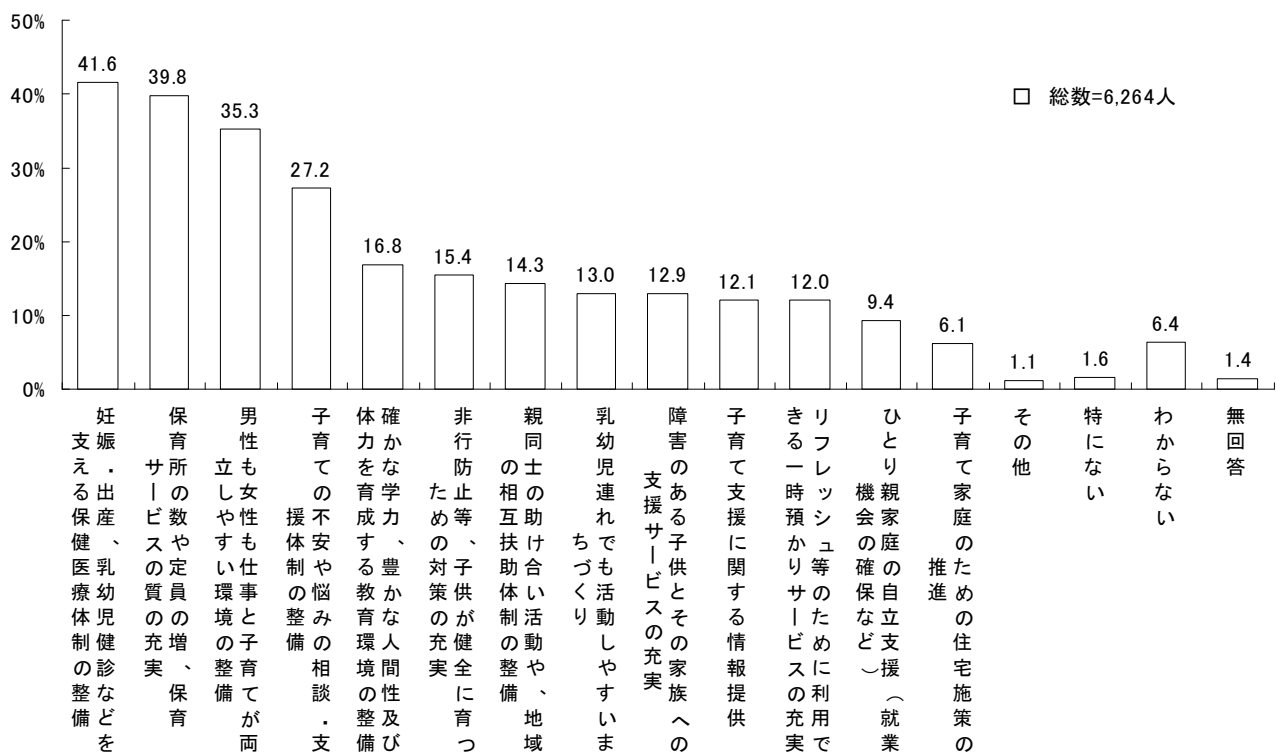
2 子育て支援

子育て支援のために有効と思うこと〔複数回答〕（報告書本文 P183）

「保健医療体制の整備」、「保育所の充実」、「両立しやすい環境の整備」の割合が高い

子育て支援にはどのような施策やサービスが有効だと思うか聞いたところ、「妊娠・出産、乳幼児健診などを支える保健医療体制の整備」の割合が最も高く 41.6%、次いで「保育所の数や定員の増、保育サービスの質の充実」が 39.8%、「男性も女性も仕事と子育てが両立しやすい環境の整備」が 35.3%、「子育ての不安や悩みの相談・支援体制の整備」が 27.2%と続いている。（図Ⅱ-21）

図Ⅱ-21 子育て支援のために有効と思うこと〔複数回答〕



3 仕事と子育て・介護の両立／ワーク・ライフ・バランス

(1) 今の社会は仕事と子育て・介護の両立が可能な社会か－性・年齢階級別（報告書本文 P187）

『そう思う』 16.1%、『そう思わない』 70.1%

今の社会は仕事と子育てや介護の両立が十分に可能な社会だと思うか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、『そう思う』の割合は16.1%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた、『そう思わない』の割合は70.1%となっている。

性・年齢階級別にみると、20～50代では、『そう思わない』の割合は、男性より女性の方が高くなっている。（表Ⅱ-4）

表Ⅱ-4 今の社会は仕事と子育て・介護の両立が可能な社会か－性・年齢階級別

	総数	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえ	そう思わない	わからない	無回答
総数	100.0 (6,264)	3.2	12.9	34.6	35.5	12.3	1.5
		16.1		70.1			
男	100.0 (2,962)	3.5	14.3	33.4	35.0	12.5	1.3
20～29歳	100.0 (284)	4.6	18.0	28.5	35.6	13.0	0.4
		64.1					
30～39歳	100.0 (470)	3.8	13.0	31.1	41.5	10.0	0.6
		72.6					
40～49歳	100.0 (522)	4.2	14.0	32.8	38.9	9.0	1.1
		71.6					
50～59歳	100.0 (483)	3.1	14.1	36.4	36.9	8.7	0.8
		73.3					
60～69歳	100.0 (643)	2.6	13.4	36.9	34.4	11.5	1.2
70～79歳	100.0 (419)	2.9	14.1	32.2	28.2	20.3	2.4
80歳以上	100.0 (139)	4.3	18.7	30.2	14.4	28.1	4.3
(再掲)65歳以上	100.0 (863)	3.4	13.3	33.4	28.5	19.2	2.2
女	100.0 (3,302)	2.9	11.7	35.7	36.0	12.1	1.6
20～29歳	100.0 (340)	5.0	13.5	29.7	43.2	8.5	-
		72.9					
30～39歳	100.0 (522)	2.1	11.3	36.8	43.7	5.9	0.2
		80.5					
40～49歳	100.0 (639)	2.0	12.1	36.3	41.8	6.9	0.9
		78.1					
50～59歳	100.0 (569)	2.8	9.5	40.2	38.8	7.2	1.4
		79.1					
60～69歳	100.0 (656)	2.4	12.3	37.2	32.8	12.5	2.7
70～79歳	100.0 (416)	4.8	11.5	33.7	20.4	26.4	3.1
80歳以上	100.0 (157)	1.9	12.7	26.1	14.6	40.1	4.5
(再掲)65歳以上	100.0 (872)	3.4	11.8	33.9	21.0	26.4	3.4

(2) ワーク・ライフ・バランス実現に必要な企業などの取組〔複数回答〕

一性・年齢階級別（報告書本文 P197）

「育児・介護の休業・休暇制度を充実する」の割合が最も高く、45.9%

ワーク・ライフ・バランス実現に必要な企業などの取組について聞いたところ、「育児・介護の休業・休暇制度を充実する」の割合が最も高く 45.9%、次いで、「いったん退職しても復職できる再雇用制度を充実する」32.5%、「育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度を作る」25.7%と続いている。

性・年齢階級別にみると、男女とも上位 3 位までは同じであるが、男性は、「経営者が意識改革を行い、リーダーシップをとる」の割合が、女性に比べて 5.6 ポイント、「長時間労働を常識とする企業・職場の風土を変革する」の割合が 6.5 ポイント高くなっている。

女性は、「短時間正社員制度を導入する」の割合が、男性と比べて 5.3 ポイント、「会社内や近くに保育所を作る」が 5.7 ポイント、「『大変なときはお互いさま』という職場意識を育てる」が 5.5 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-5）

表Ⅱ-5 ワーク・ライフ・バランス実現に必要な企業などの取組〔複数回答〕 一性・年齢階級別

	総数	育児・介護の休業・休暇制度を充実する	教育訓練、ボランティア休暇など休業制度を充実する	いったん退職しても復職できる再雇用制度を充実する	短時間正社員制度を導入する	業務時刻の繰下げ・繰上げなど、始業終了時刻の調整を行う	在宅勤務などを認め、通勤の負担を減らす	育児・介護で仕事を休んでも不利にならない人事評価制度を作る	正社員と正社員以外の格差を改善する	会社内や近くに保育所を作る	経営者が意識改革を行い、リーダーシップをとる	長時間労働を常識とする企業・職場の風土を変革する	「大変なときはお互いさま」という職場意識を育てる	その他	特になし	わからない	無回答
総数	100.0 (6,264)	45.9	7.3	32.5	12.4	21.6	15.0	25.7	17.9	14.5	13.0	21.0	18.4	1.2	1.7	7.6	1.7
男	100.0 (2,962)	44.3	9.4	32.9	9.6	22.7	16.5	25.3	17.8	11.5	16.0	24.4	15.5	1.5	1.8	7.1	1.6
20～29歳	100.0 (284)	48.2	10.2	25.0	9.5	33.5	15.8	27.1	13.4	12.7	11.3	31.3	15.8	1.8	1.8	6.7	0.7
30～39歳	100.0 (470)	48.9	8.5	24.0	13.4	23.8	17.7	24.7	13.4	15.7	17.2	32.6	14.5	2.3	1.1	4.5	1.7
40～49歳	100.0 (522)	40.8	9.2	29.3	10.2	25.1	23.0	23.9	10.3	11.5	20.1	33.0	16.7	1.9	1.7	3.3	0.4
50～59歳	100.0 (483)	39.8	11.6	38.5	11.0	21.9	18.4	22.8	20.1	12.2	18.4	23.8	16.1	2.5	1.7	4.1	0.8
60～69歳	100.0 (643)	47.9	9.6	39.5	8.9	21.9	13.4	27.2	26.1	9.6	15.1	19.6	15.4	0.3	1.4	6.2	0.9
70～79歳	100.0 (419)	43.7	8.6	37.5	6.0	16.0	12.6	27.0	19.8	8.1	13.6	13.6	16.0	0.5	2.4	14.1	3.8
80歳以上	100.0 (139)	35.3	5.8	28.8	3.6	14.4	9.4	23.0	17.3	10.1	9.4	8.6	10.8	0.7	5.0	25.2	5.0
(再掲)65歳以上	100.0 (863)	45.7	8.3	36.7	6.1	17.5	11.7	27.2	22.2	9.2	12.9	13.9	14.1	0.5	2.7	13.3	3.1
女	100.0 (3,302)	47.3	5.5	32.2	14.9	20.6	13.6	26.0	18.0	17.2	10.4	17.9	21.0	0.9	1.7	8.0	1.8
20～29歳	100.0 (340)	59.7	6.2	27.6	18.5	20.3	12.4	27.1	17.1	28.5	6.2	21.5	22.1	0.3	0.6	2.9	1.5
30～39歳	100.0 (522)	50.6	5.6	26.1	22.0	26.6	16.7	27.6	14.2	22.4	10.9	23.9	22.2	1.0	0.4	2.1	1.1
40～49歳	100.0 (639)	43.0	7.2	32.2	17.8	22.1	16.4	26.9	17.5	15.5	12.8	17.7	20.5	1.6	2.5	3.6	0.9
50～59歳	100.0 (569)	53.8	4.4	35.5	15.6	24.3	14.8	26.7	19.3	17.4	10.0	17.4	17.8	1.4	0.4	5.4	1.6
60～69歳	100.0 (656)	46.6	4.6	36.3	11.4	20.9	10.7	26.4	23.2	14.9	11.7	15.9	23.8	0.6	2.0	7.9	1.8
70～79歳	100.0 (416)	38.2	4.8	34.9	6.0	9.6	9.6	25.0	17.1	11.1	9.6	13.2	22.4	0.2	3.4	20.7	3.1
80歳以上	100.0 (157)	31.2	5.1	26.8	5.7	10.2	12.7	14.6	11.5	7.0	4.5	14.0	12.7	0.6	4.5	32.5	5.1
(再掲)65歳以上	100.0 (872)	38.5	4.8	34.7	6.5	12.0	10.3	23.9	17.4	11.4	9.9	13.9	21.7	0.5	3.2	19.3	3.2

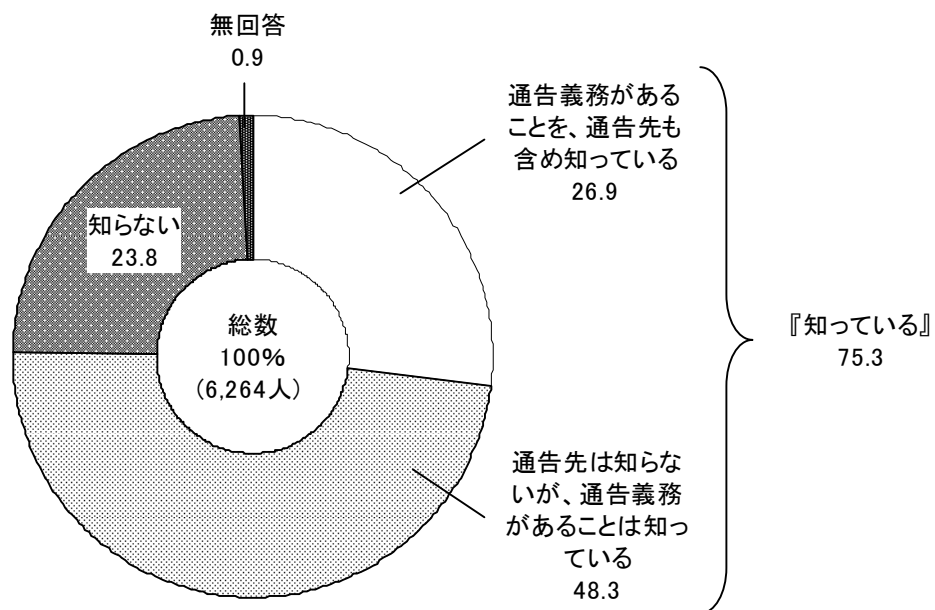
4 児童虐待

児童虐待の通告義務の認知度（報告書本文 P202）

『知っている』の割合は、75.3%

児童虐待の通告義務について聞いたところ、「通告義務があることを、通告先も含め知っている」と「通告先は知らないが、通告義務があることは知っている」を合わせた、『知っている』の割合は75.3%、「知らない」の割合は23.8%となっている。（図Ⅱ-22）

図Ⅱ-22 児童虐待の通告義務の認知度



第9章 障害者支援

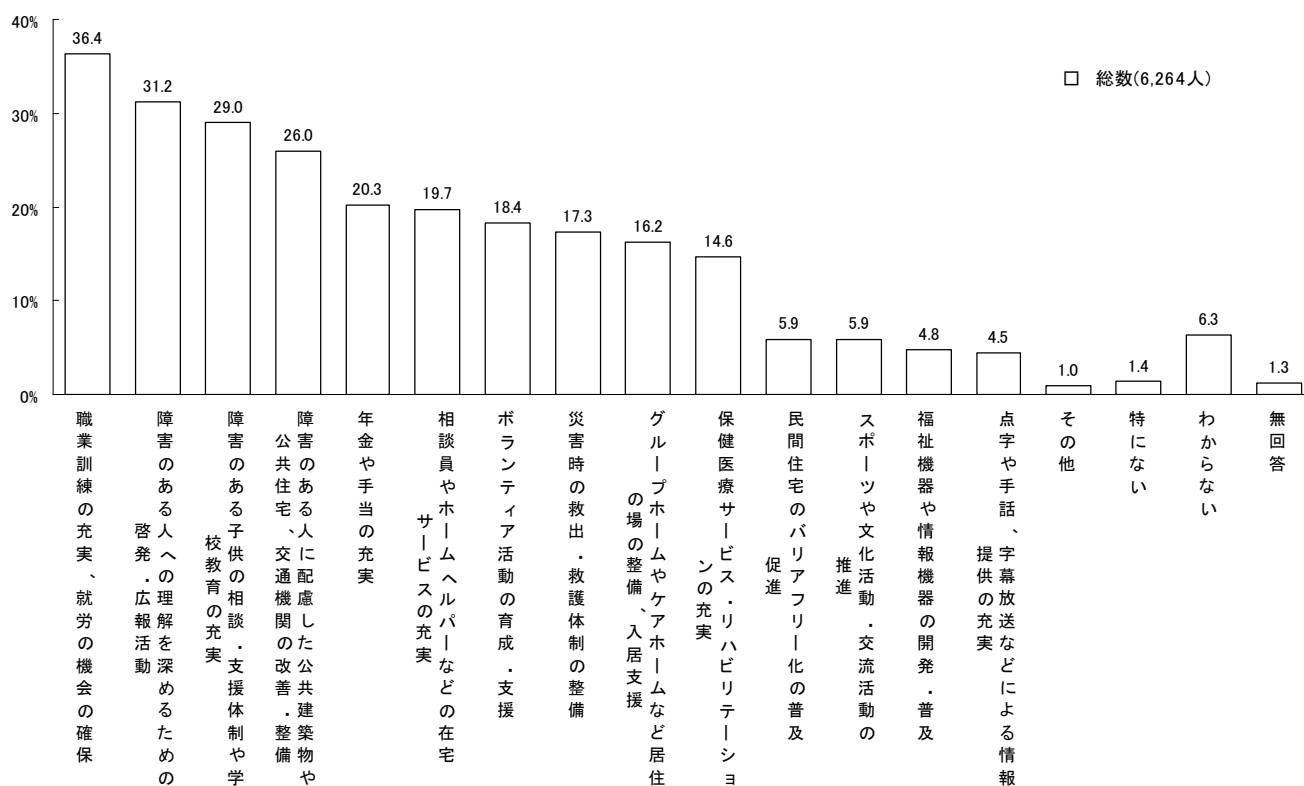
1 重要だと思う障害者への施策

重要だと思う障害者への施策〔複数回答〕（報告書本文 P205）

「職業訓練の充実、就労の機会の確保」の割合が最も高く、36.4%

障害者への行政施策としてどのようなことが重要だと思うか聞いたところ、「職業訓練の充実、就労の機会の確保」の割合が最も高く 36.4%、次いで、「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」が 31.2%、「障害のある子供の相談・支援体制や学校教育の充実」が 29.0%と続いている。（図Ⅱ-23）

図Ⅱ-23 重要だと思う障害者への施策〔複数回答〕



2 障害者の一般就労へ向けた企業などの取組

障害者の一般就労へ向けた企業などの取組〔複数回答〕

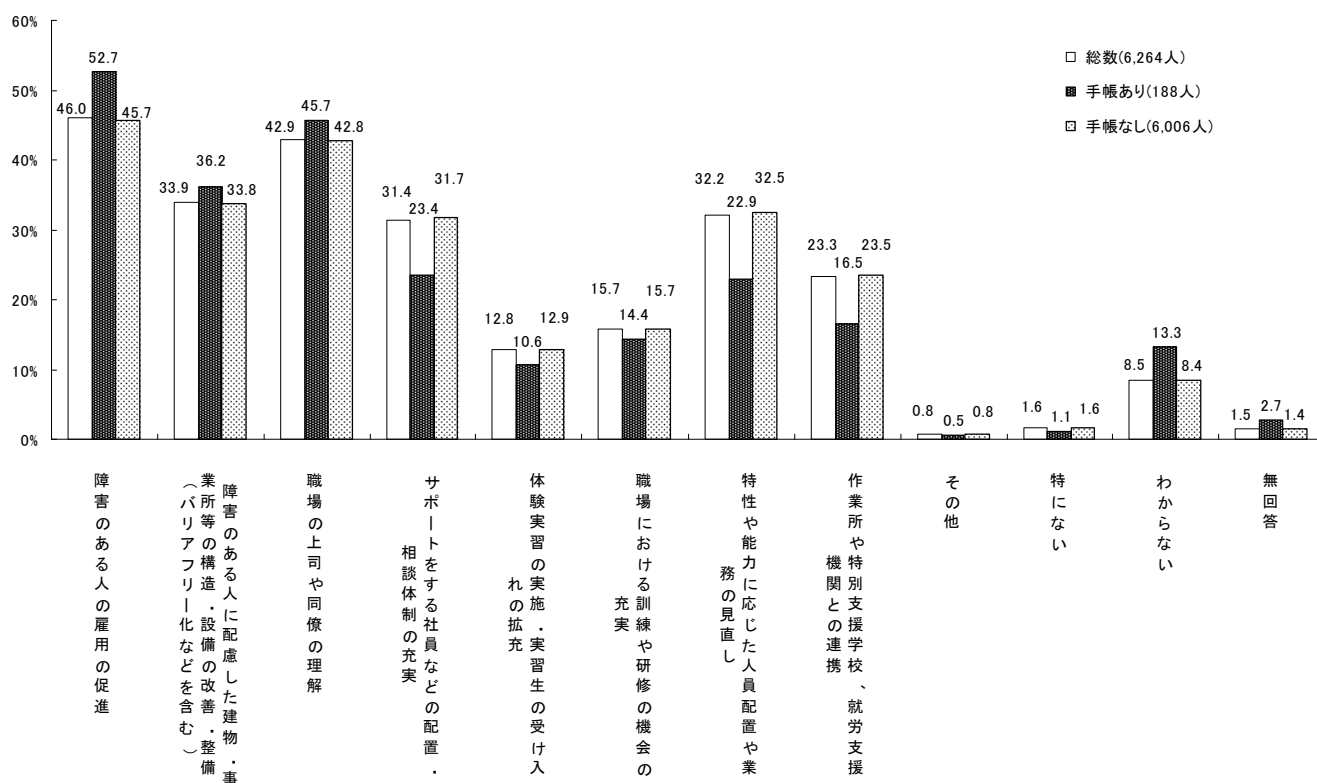
－身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持状況別（報告書本文 P211）

「手帳を所持している人」「手帳を所持していない人」どちらも、「障害のある人の雇用の促進」の割合が最も高い

障害者の一般就労へ向けた企業などの取組を手帳の所持状況別にみると、「障害のある人の雇用の促進」の割合が、「手帳を所持している人（手帳あり）」52.7%、「手帳を所持していない人（手帳なし）」45.7%と、それぞれ最も高くなっている。（図Ⅱ-24）

図Ⅱ-24 障害者の一般就労へ向けた企業などの取組〔複数回答〕

－身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持状況別



（注）手帳所持している人（手帳あり）には、「申請中」を含めている。

第10章 地域福祉

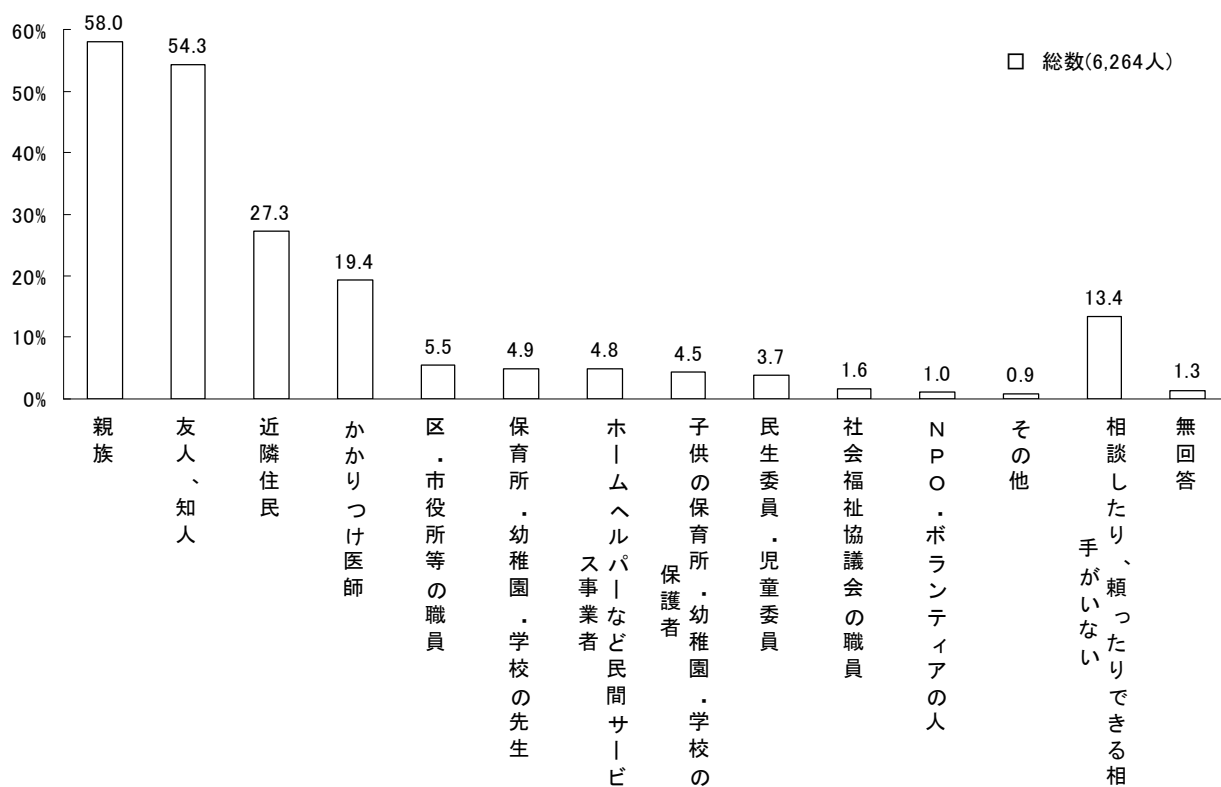
1 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人

地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕（報告書本文 P213）

「親族」58.0%、「友人、知人」54.3%

地域の中で、困ったときに相談したり、頼ったりできる人について聞いたところ、「親族」の割合が最も高く58.0%、次いで「友人、知人」が54.3%と続き、どちらも5割を超えている。一方、「相談したり、頼ったりできる相手がいない」は13.4%となっている。（図Ⅱ-25）

図Ⅱ-25 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕



2 災害時要援護者への協力意向

災害発生時に要援護者に対して協力できるか（報告書本文 P218）

「進んで協力する」と「求められれば協力する」を合わせた割合は、約 8 割

地域の中で災害が発生した場合、要援護者に対して何らかの協力ができるかを聞いたところ、「進んで協力する」と「求められれば協力する」を合わせた、『協力する』の割合は 80.2%で、全体の約 8 割となっている。一方、「協力できない」は 5.1%となっている。（図Ⅱ-26）

図Ⅱ-26 災害時要援護者に対して何らかの協力ができるか

